

鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔在宅介護実態調査〕

令和2年4月
鈴鹿亀山地区広域連合

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 配布・回収数	1
4 報告書の見方(注意事項)	1
II 調査結果	2
A 票(認定調査員が、概況調査と並行して記載する項目)	2
調査対象者ご本人について	2
主な介護者の方について	5
居住等の状況について	9
介護サービスなどについて	17
在宅医療などについて	24
B 票(主な介護者の方(または本人)にお答えいただく項目)	38
介護と就労について	38
今後の介護について	62
認知症について	68
地域包括支援センターについて	79
地域での支援について	82
属性	83

I 調査の概要

1 調査の目的

鈴鹿亀山地区広域連合では、令和3年度からの「第8期介護保険事業計画」の策定作業を進めています。この調査は、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ①調査対象地域 鈴鹿亀山地区全域
- ②調査対象者 鈴鹿亀山地区広域にお住まいの介護保険による要介護認定(要介護1～5)を受けている在宅の方とその介護者の方
- ③調査期間 令和元年11月～令和2年3月
- ④調査方法 A票(本人用)は調査員による訪問面接調査、B票(介護者用)は本人記入方式による訪問調査、ただし一部は郵送によって回収

3 配布・回収数

調査数
570

4 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中のN数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
- ⑥ 地区別クロス集計については、日常生活圏域のブロックである『鈴鹿西部』、『鈴鹿北部』、『鈴鹿中部』、『鈴鹿南部』、『亀山』の5区分での集計を行います。

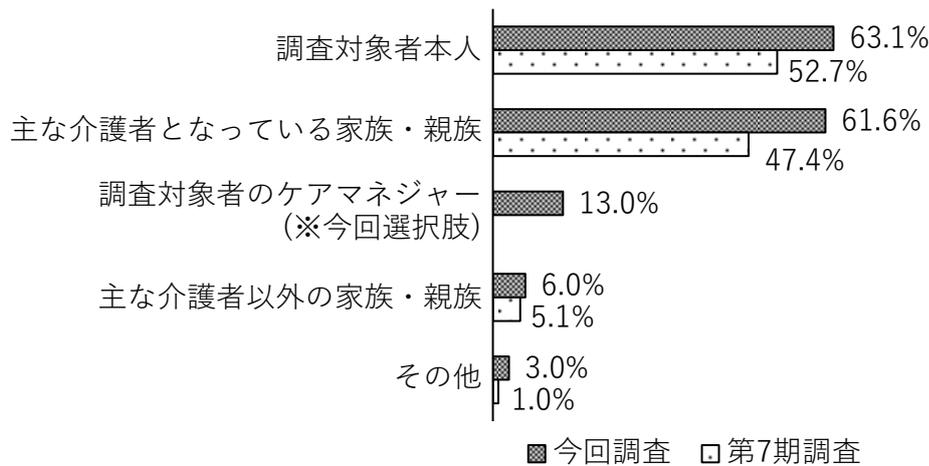
II 調査結果

A票(認定調査員が、概況調査と並行して記載する項目)

この調査票(A票)の聴き取りを行った相手の方は、どなたですか。(複数選択可)

【N=537、1,563(第7期調査)】

調査票の聴取者については、「調査対象者本人」が63.1%を占め、「主な介護者となっている家族・親族」は61.6%、「調査対象者のケアマネジャー」は13.0%となっています。

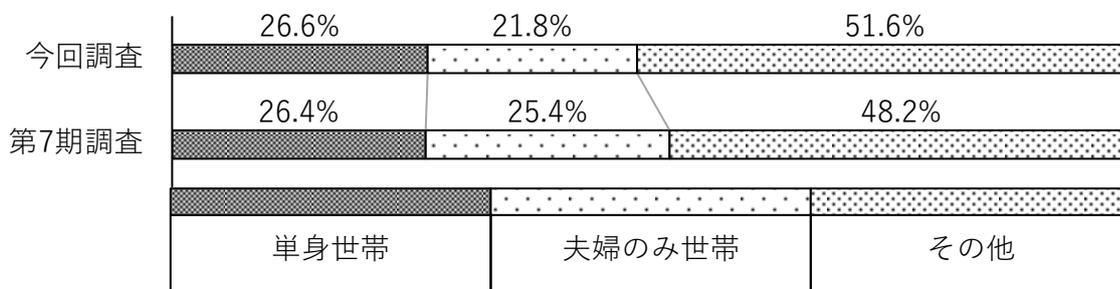


調査対象者ご本人について

問1 世帯類型について、ご回答ください。(1つを選択) 【N=564、1,543(第7期調査)】

世帯類型については、「その他」が過半数(51.6%)を占め、「単身世帯」は26.6%、「夫婦のみ世帯」は21.8%となっています。

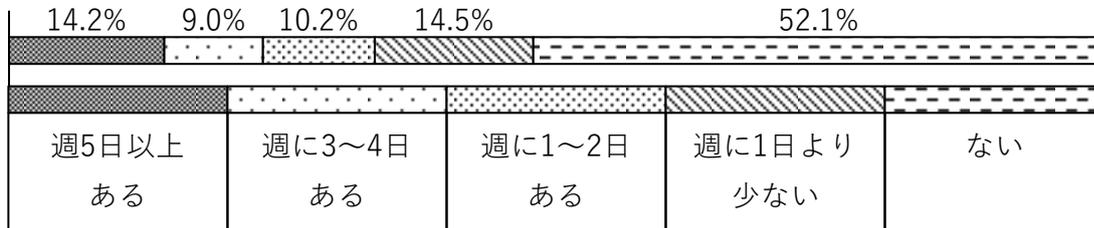
第7期調査と比較すると、「その他」が3.4ポイント上昇する一方、「夫婦のみ世帯」は3.6ポイント低下しています。



問1で「2」または「3」と回答した方にお伺いします。

問1-② ご本人は、日中、一人になることがありますか。(1つを選択) 【N=401】

日中一人になることがあるかどうかについては、「ない」が過半数(52.1%)を占めています。一方、「週5日以上ある」は14.2%となっています。



要介護度別クロス

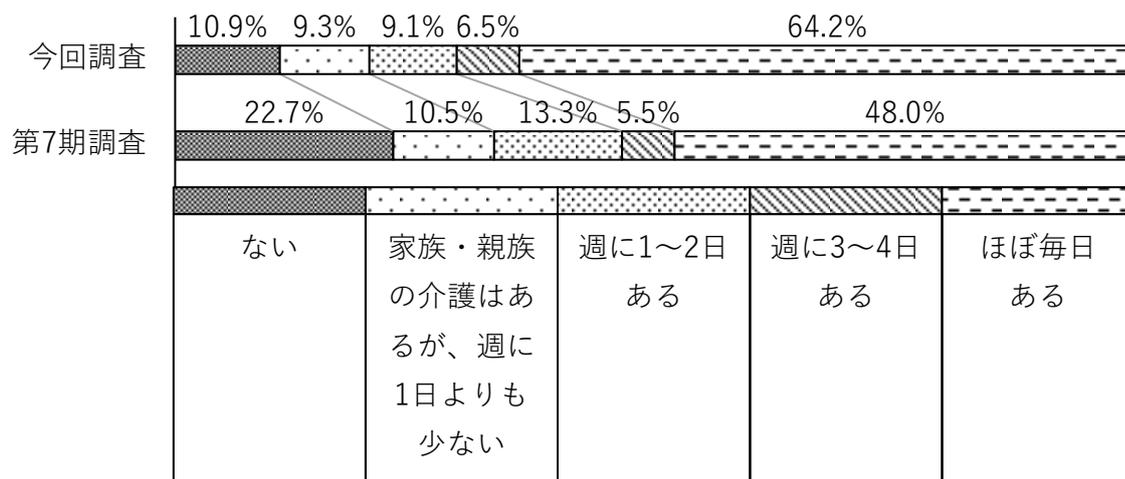
要介護度別にみると、『要支援1』では「週5日以上ある」が37.8%と最も高くなっていますが、その他の要介護度では「ない」が最も高くなっています。特に『要介護3』『要介護4』『要介護5』では約70%以上と高くなっています。

	合計	あ 週 る 5 日 以 上	あ 週 る に 3 〜 4 日	あ 週 る に 1 〜 2 日	少 週 な に 1 日 よ り	な い
全体	393	14.2	9.2	10.4	14.2	51.9
要支援1	37	37.8	8.1	10.8	21.6	21.6
要支援2	72	19.4	12.5	11.1	12.5	44.4
要介護1	93	19.4	11.8	9.7	18.3	40.9
要介護2	96	4.2	7.3	14.6	18.8	55.2
要介護3	42	7.1	7.1	7.1	-	78.6
要介護4	35	8.6	8.6	5.7	8.6	68.6
要介護5	18	-	-	5.6	5.6	88.9

再びすべての方にお伺いします。

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)。(1つを選択) 【N=558、1,320(第7期調査)】

家族等からの介護頻度については、「ほぼ毎日ある」が64.2%を占めています。一方、「ない」は10.9%となっています。
 第7期調査と比較すると、「ほぼ毎日ある」が16.2ポイント上昇する一方、「ない」は11.8ポイント低下しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「ほぼ毎日ある」が最も高く、特に『鈴鹿北部』では76.2%と高くなっています。一方、『亀山』では「ない」が16.5%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	ない	日は家族よりも少ないに介護	週に1~2日ある	週に3~4日ある	ほぼ毎日ある
全体	556	11.0	9.2	9.2	6.5	64.2
鈴鹿西部	113	9.7	11.5	10.6	8.0	60.2
鈴鹿北部	105	7.6	6.7	6.7	2.9	76.2
鈴鹿中部	122	11.5	5.7	8.2	8.2	66.4
鈴鹿南部	119	10.1	10.1	11.8	7.6	60.5
亀山	97	16.5	12.4	8.2	5.2	57.7

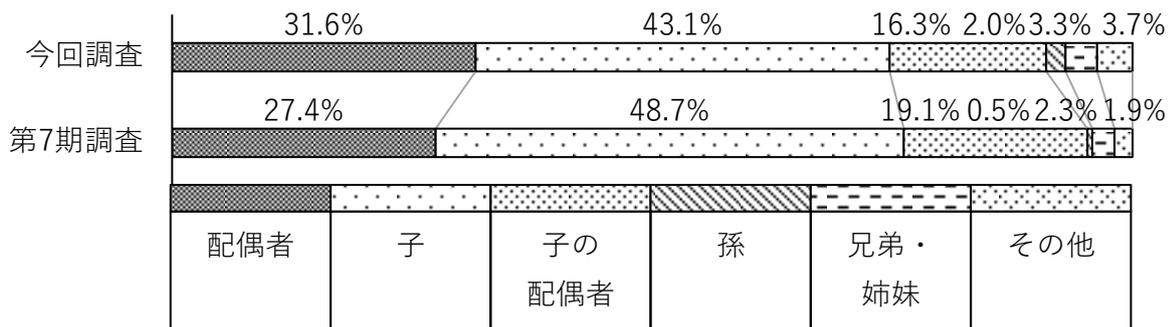
主な介護者の方について

問3～8は、問2で「2」「3」「4」「5」と回答した方にお伺いします。

問3 主な介護者の方は、どなたですか。(1つを選択) 【N=490、938(第7期調査)】

主な介護者については、「子」が43.1%と最も高く、次いで「配偶者」(31.6%)、「子の配偶者」(16.3%)と続いています。

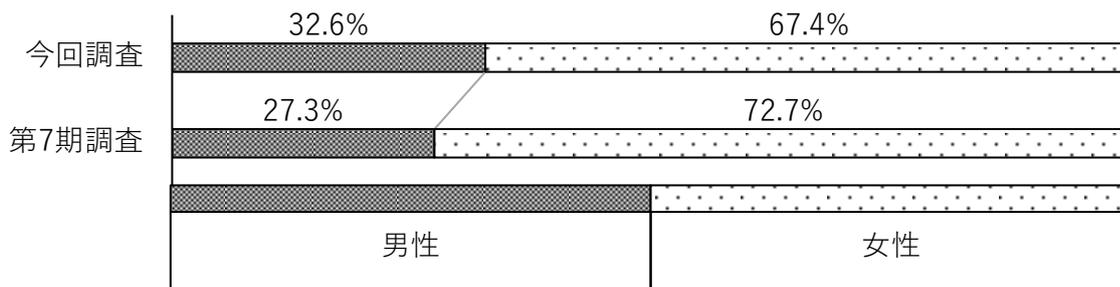
第7期調査と比較すると、「配偶者」が4.2ポイント上昇する一方、「子」は5.6ポイント、「子の配偶者」は2.8ポイント、それぞれ低下しています。



問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(1つを選択) 【N=482、945(第7期調査)】

主な介護者の性別については、「女性」が67.4%、「男性」が32.6%と、「女性」が「男性」の約2倍となっています。

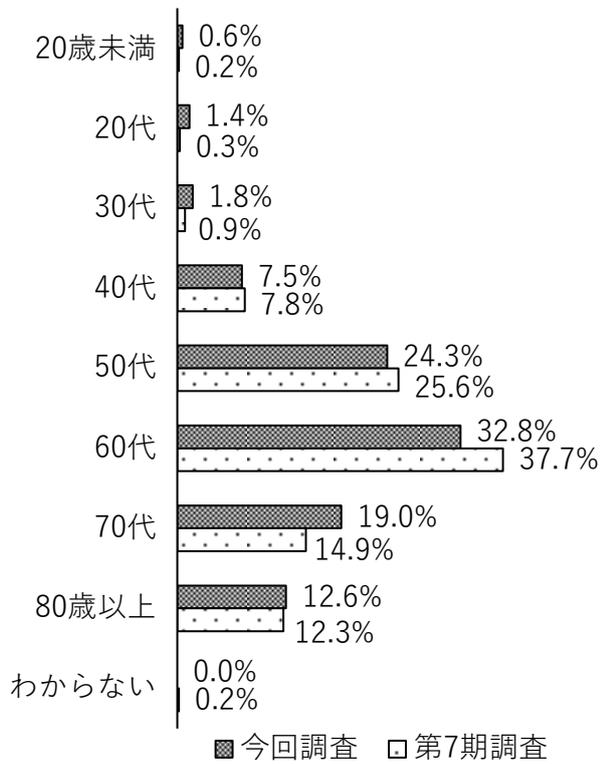
第7期調査と比較すると、「男性」が5.3ポイント上昇しています。



問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つを選択) 【N=494、967(第7期調査)】

主な介護者の年齢については、「60代」が32.8%と最も高く、次いで「50代」(24.3%)、「70代」(19.0%)、「80歳以上」(12.6%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「70代」が4.1ポイント上昇する一方、「60代」が4.9ポイント低下しています。

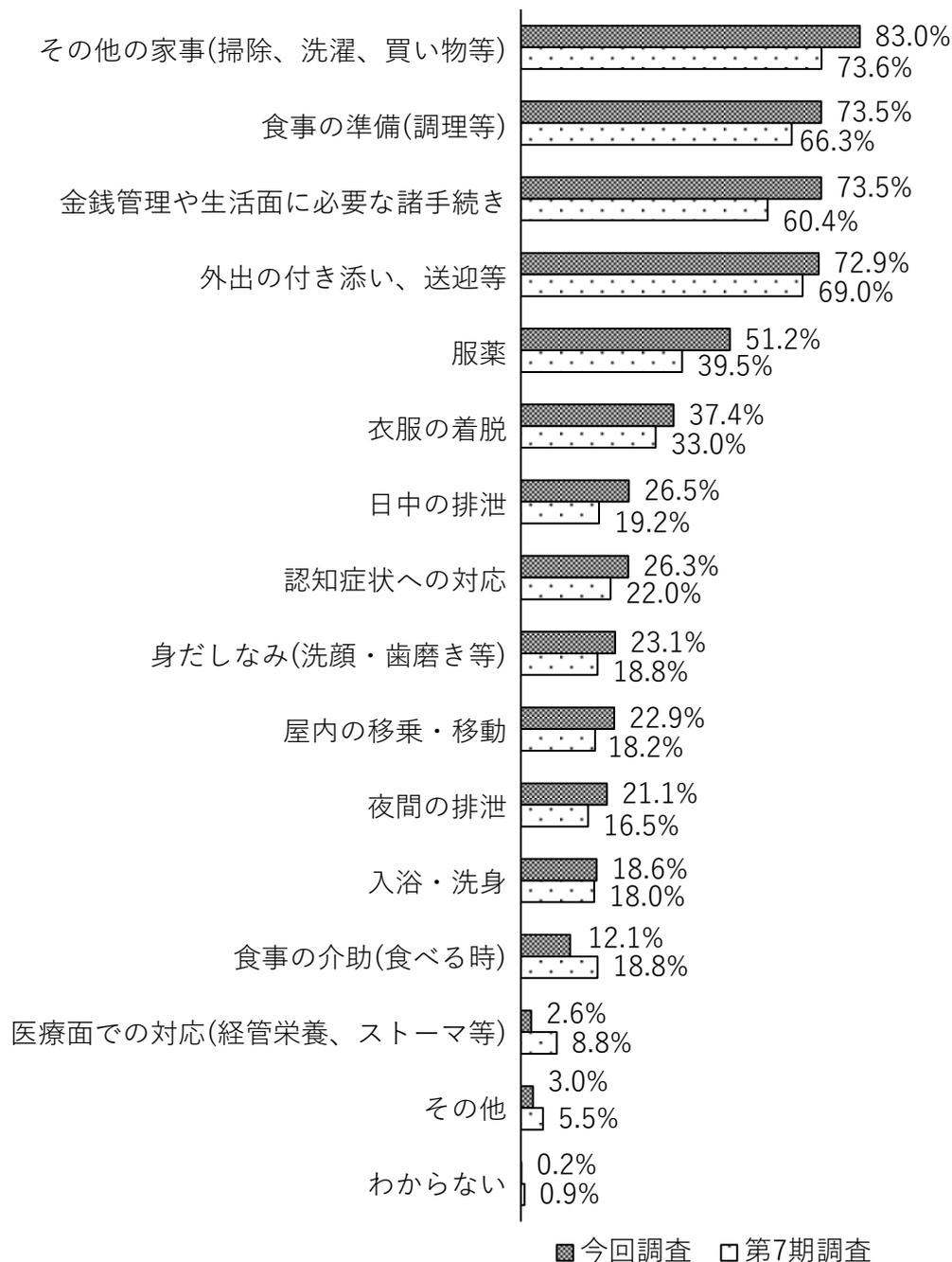


問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(複数選択可)

【N=494、955(第7期調査)】

主な介護者が行っている介護等については、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が83.0%と最も高く、次いで「食事の準備(調理等)」と「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が同率(73.5%)で続いています。以下、「外出の付き添い、送迎等」(72.9%)、「服薬」(51.2%)、「衣服の着脱」(37.4%)と続いています。

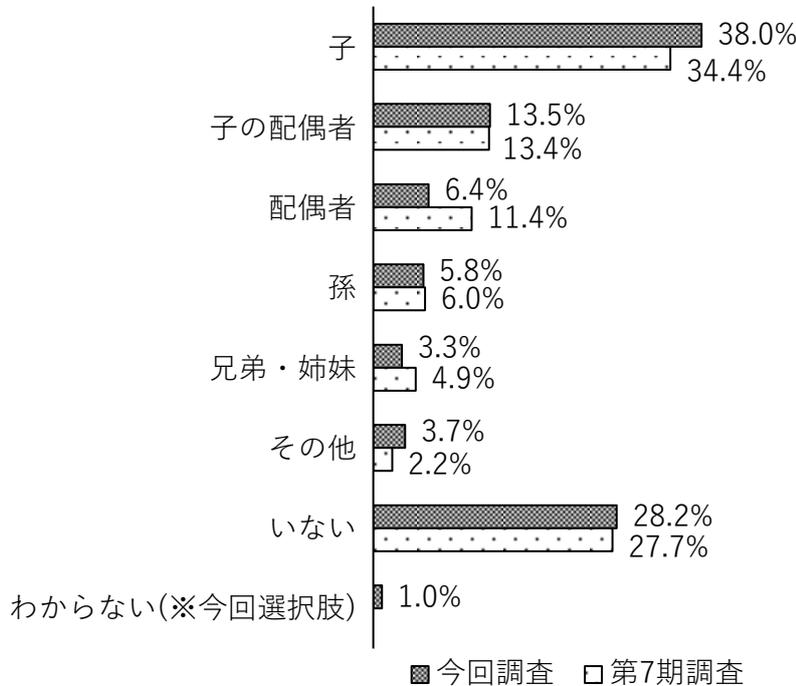
第7期調査と比較すると、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が13.1ポイント、「服薬」が11.7ポイント、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が9.4ポイント、それぞれ上昇する一方、「食事の介助(食べる時)」は6.7ポイント、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」は6.2ポイント、それぞれ低下しています。



問7 ご家族の中で、主な介護者の方以外に補助的な介護者はおられますか。(1つを選択)

【N=482、880(第7期調査)】

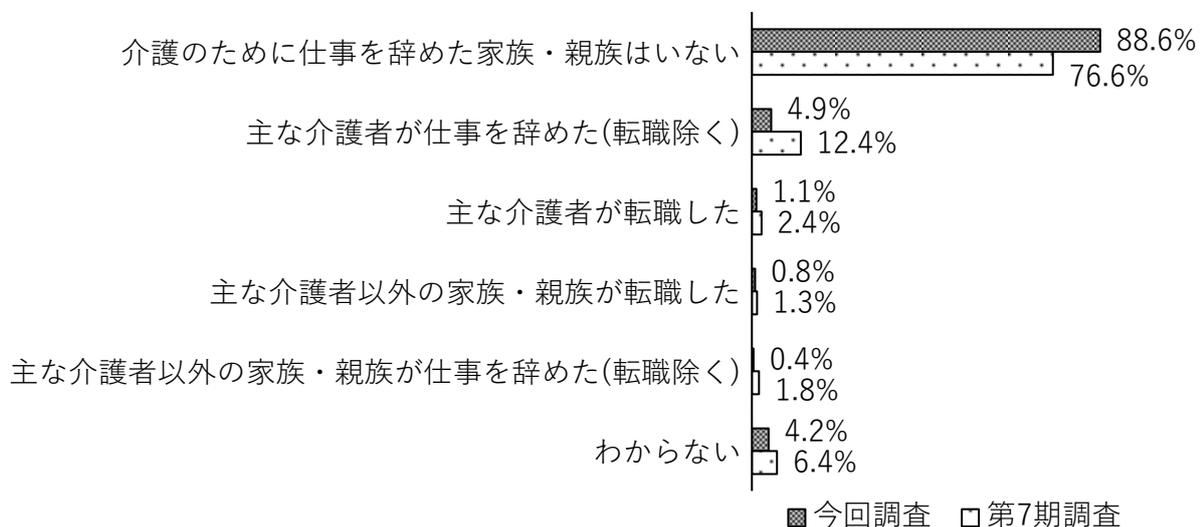
主な介護者以外の補助的な介護者については、「子」が38.0%と最も高く、次いで「子の配偶者」が13.5%と続いています。一方、「いない」は28.2%となっています。



問8 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。(複数選択可) 【N=473、781(第7期調査)】

介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた家族等があるかどうかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が88.6%と突出して高くなっています。「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は4.9%となっています。

第7期調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が12.0ポイント上昇する一方、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は7.5ポイント低下しています。

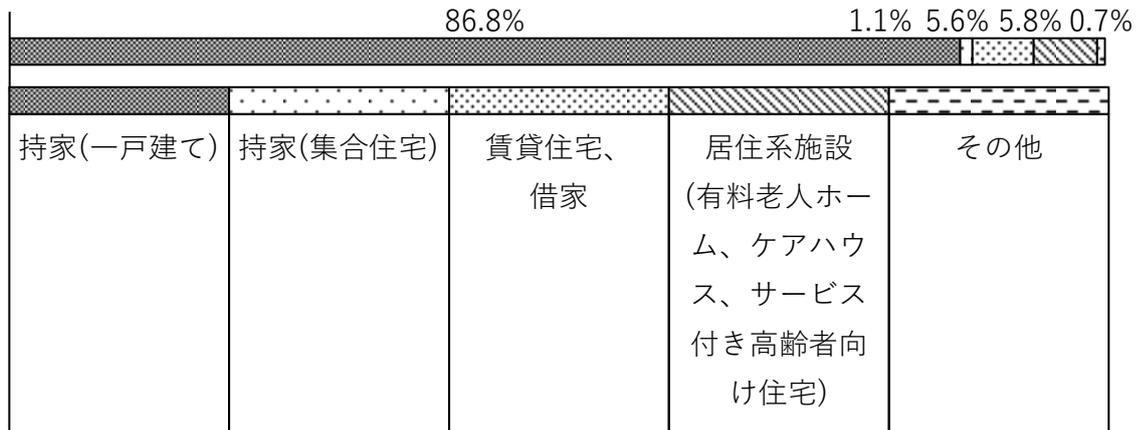


居住等の状況について

再びすべての方にお伺いします。

問9 お住まいは、次のうちどれですか。(1つを選択) 【N=569】

住まいについては、「持家(一戸建て)」が86.8%を占めています。「居住系施設」は5.8%、「賃貸住宅、借家」は5.6%、「持家(集合住宅)」は1.1%となっています。



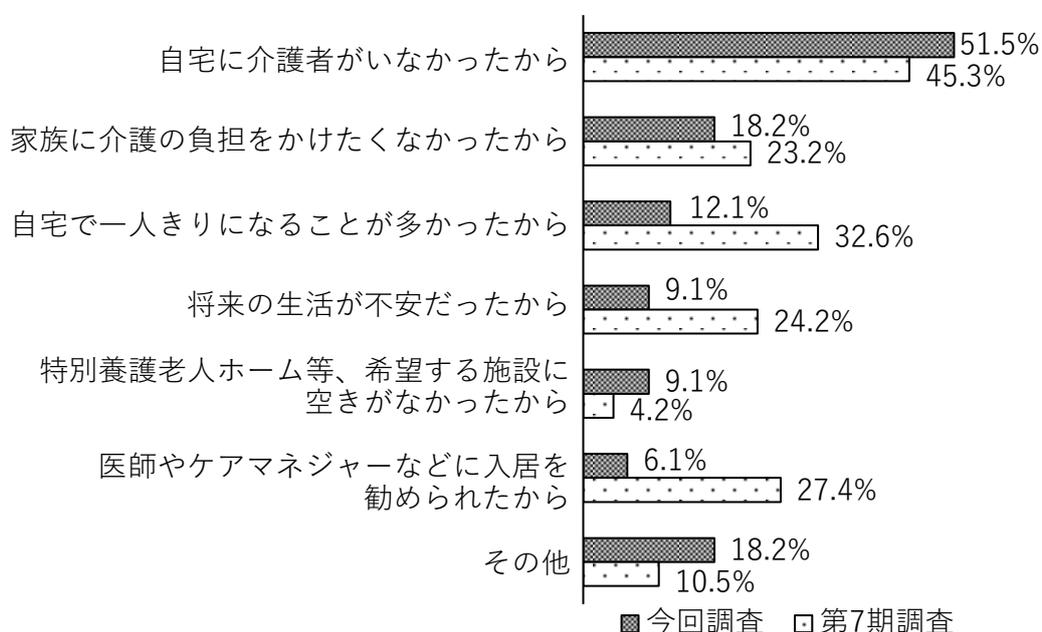
問9で「4」と回答した方にお伺いします。

問9-② 現在の居住系施設に入居した理由は何ですか。(複数選択可)

【N=33、95(第7期調査)】

現在の居住系施設に入居した理由については、「自宅に介護者がいなかったから」が51.5%と最も高く、次いで「家族に介護の負担をかけたくなかったから」(18.2%)、「自宅で一人きりになることが多かったから」(12.1%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「その他」が7.7ポイント、「自宅に介護者がいなかったから」が6.2ポイント、「特別養護老人ホーム等、希望する施設に空きがなかったから」が4.9ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「医師やケアマネジャーなどに入居を勧められたから」は21.3ポイント、「自宅で一人きりになることが多かったから」は20.5ポイント、「将来の生活が不安だったから」は15.1ポイント、それぞれ低下しています。

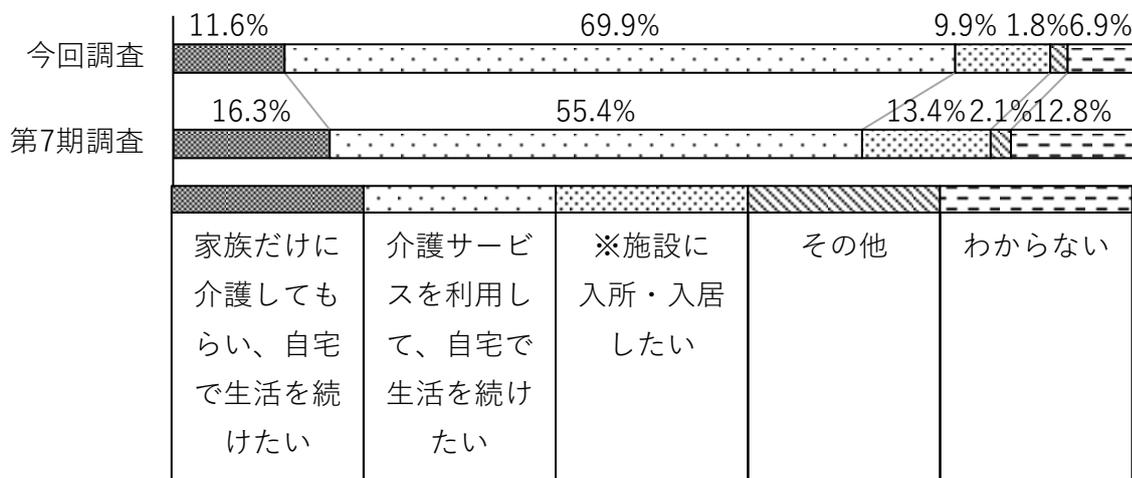


再びすべての方にお伺いします。

問10 ご本人は、これからの生活をどこでどのように送りたいとお考えですか。(1つを選択)
【N=568、1,403(第7期調査)】

これからの生活をどこでどのように送りたいかについては、「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が69.9%を占め、「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」は11.6%、「施設に入所・入居したい」は9.9%となっています。

第7期調査と比較すると、「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が14.5ポイント上昇する一方、「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」は4.7ポイント、「施設に入所・入居したい」は3.5ポイント、それぞれ低下しています。



※ 「施設に入所・入居したい」の第7期調査の数値については、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい」と「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」の合算

要介護度別クロス

要介護度別にみると、いずれの要介護度でも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が最も高く、『要介護2』では80.8%と特に高くなっています。また、『要支援1』では「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」(22.0%)が、『要介護4』では「施設に入所・入居したい」(22.9%)が、それぞれ他の要介護度に比べて高くなっています。

	合計	生活も家族だけに介護したい	家族だけではないが、自宅で生活を続けたい	介護サービスを利用して自宅で生活をしたい	施設に入所・入居したい	その他	わからない
全体	555	11.7	70.1	9.7	1.8	6.7	
要支援1	59	22.0	66.1	6.8	-	5.1	
要支援2	109	12.8	67.9	11.0	1.8	6.4	
要介護1	134	14.9	67.2	6.7	1.5	9.7	
要介護2	120	6.7	80.8	8.3	1.7	2.5	
要介護3	64	9.4	70.3	9.4	3.1	7.8	
要介護4	48	2.1	62.5	22.9	4.2	8.3	
要介護5	21	14.3	66.7	9.5	-	9.5	

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が最も高く、『夫婦のみ世帯』では77.2%と特に高くなっています。一方、『単身世帯』では「施設に入所・入居したい」(21.3%)が他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	生活も家族だけに介護したい	家族だけではないが、自宅で生活を続けたい	介護サービスを利用して自宅で生活をしたい	施設に入所・入居したい	その他	わからない
全体	562	11.4	70.1	10.0	1.8	6.8	
単身世帯	150	8.0	57.3	21.3	4.0	9.3	
夫婦のみ世帯	123	14.6	77.2	0.8	0.8	6.5	
その他	289	11.8	73.7	8.0	1.0	5.5	

日常生活圏域別クロス

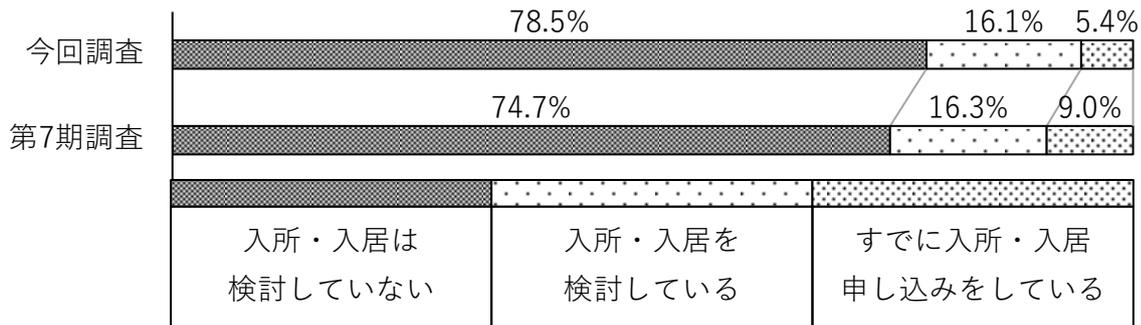
日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が最も高く、『鈴鹿西部』では77.2%と特に高くなっています。一方、『鈴鹿中部』『鈴鹿南部』『亀山』では「施設に入所・入居したい」が10%を超えており、特に『鈴鹿中部』では15.4%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	生活も家族だけで続けたい	家族だけで続けたい	介護サービスを利用して自宅で生活を続けたい	施設に入所・入居したい	その他	わからない
全体	566	11.7	69.8	9.9	1.8	6.9	
鈴鹿西部	114	8.8	77.2	5.3	2.6	6.1	
鈴鹿北部	106	13.2	72.6	5.7	-	8.5	
鈴鹿中部	123	13.0	63.4	15.4	3.3	4.9	
鈴鹿南部	121	9.1	71.9	10.7	0.8	7.4	
亀山	102	14.7	63.7	11.8	2.0	7.8	

問11 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。(1つを選択)
【N=521、1,307(第7期調査)】

施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が78.5%を占め、「入所・入居を検討している」は16.1%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は5.4%となっています。

第7期調査と比較すると、「入所・入居は検討していない」が3.8ポイント上昇する一方、「すでに入所・入居申し込みをしている」は3.6ポイント低下しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要介護3』以上では「入所・入居を検討している」が20%を超えており、特に『要介護4』では29.8%と高くなっています。

	合計	入所・入居は検討しない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている
全体	509	79.2	15.9	4.9
要支援1	53	92.5	7.5	-
要支援2	101	90.1	9.9	-
要介護1	122	81.1	13.1	5.7
要介護2	107	77.6	18.7	3.7
要介護3	59	67.8	20.3	11.9
要介護4	47	59.6	29.8	10.6
要介護5	20	65.0	25.0	10.0

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『単身世帯』では「入所・入居を検討している」(22.7%)と「すでに入所・入居申し込みをしている」(12.9%)が他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	討入 し所 て・ い入 ない 居は 検	討入 し所 て・ い入 居を 検	て居 す申 いで いる しに 込入 み所 を・ し入
全体	516	78.9	15.7	5.4
単身世帯	132	64.4	22.7	12.9
夫婦のみ世帯	115	91.3	7.8	0.9
その他	269	80.7	15.6	3.7

介護者別クロス

介護者別にみると、『孫』『兄弟・姉妹』では「入所・入居を検討している」が20%を超えています。また、『その他』では「すでに入所・入居申し込みをしている」(23.5%)が他の介護者に比べて高くなっています。

	合計	討入 し所 て・ い入 ない 居は 検	討入 し所 て・ い入 居を 検	て居 す申 いで いる しに 込入 み所 を・ し入
全体	449	80.6	15.6	3.8
配偶者	141	90.1	7.8	2.1
子	194	76.8	19.1	4.1
子の配偶者	74	81.1	18.9	-
孫	9	77.8	22.2	-
兄弟・姉妹	14	64.3	21.4	14.3
その他	17	58.8	17.6	23.5

利用状況別クロス

利用状況別にみると、『利用している』では「入所・入居を検討している」(17.3%)が、『利用していない』では「入所・入居は検討していない」(86.0%)が、それぞれ他に比べて高くなっています。

	合計	討入 し所 て・ い入 ない 居は 検	討入 し所 て・ い入 居を 検	て居 す申 いで いる しに 込入 み所 を・ し入
全体	517	78.7	16.2	5.0
利用している	417	77.0	17.3	5.8
利用していない	100	86.0	12.0	2.0

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、『認知症の方』では「入所・入居を検討している」(21.1%)が、『軽度あるいは該当しない方』では「入所・入居を検討していない」(89.1%)が、それぞれ他に比べて高くなっています。

	合計	入所・入居を検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居している
全体	509	79.2	15.9	4.9
軽度あるいは該当しない方	211	89.1	8.5	2.4
認知症の方	298	72.1	21.1	6.7

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『亀山』では「入所・入居を検討している」(22.9%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

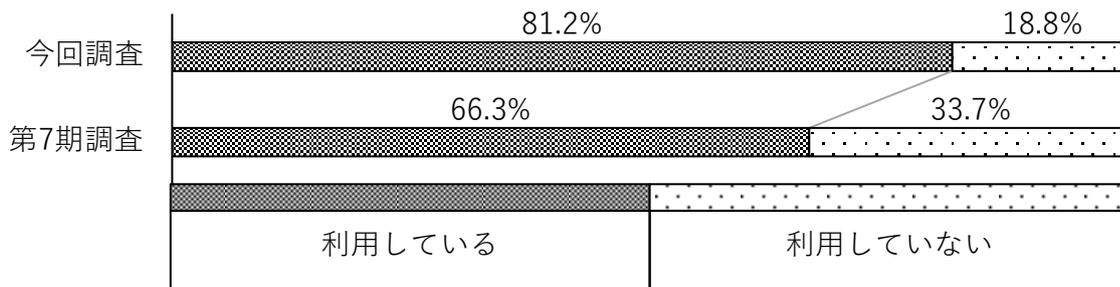
	合計	入所・入居を検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居している
全体	519	78.6	16.0	5.4
鈴鹿西部	96	79.2	16.7	4.2
鈴鹿北部	97	85.6	10.3	4.1
鈴鹿中部	116	82.8	12.9	4.3
鈴鹿南部	114	72.8	17.5	9.6
亀山	96	72.9	22.9	4.2

介護サービスなどについて

再びすべての方にお伺いします。

問12 現在、ご本人は住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスを利用していますか。
(1つを選択) 【N=564、1,509(第7期調査)】

住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況については、「利用している」が81.2%を占め、「利用していない」は18.8%となっています。
第7期調査と比較すると、「利用している」が14.9ポイント上昇しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、要介護度が重くなるに従い利用率も高くなる傾向にあり、『要介護2』以上では約90%の利用率となっています。

	合計	利用している (%)	利用していない (%)
全体	551	81.1	18.9
要支援1	59	67.8	32.2
要支援2	109	68.8	31.2
要介護1	135	78.5	21.5
要介護2	117	92.3	7.7
要介護3	64	90.6	9.4
要介護4	46	89.1	10.9
要介護5	21	90.5	9.5

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『単身世帯』『その他』では利用率はそれぞれ85.1%、85.5%と高くなっています。

	合計	利用している (%)	利用していない (%)
全体	558	81.7	18.3
単身世帯	148	85.1	14.9
夫婦のみ世帯	121	68.6	31.4
その他	289	85.5	14.5

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『亀山』以外では利用率が80%を超えています。『亀山』では「利用していない」(27.3%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています

	合計	利用している	利用していない
全体	562	81.3	18.7
鈴鹿西部	114	84.2	15.8
鈴鹿北部	106	84.0	16.0
鈴鹿中部	123	84.6	15.4
鈴鹿南部	120	80.0	20.0
亀山	99	72.7	27.3

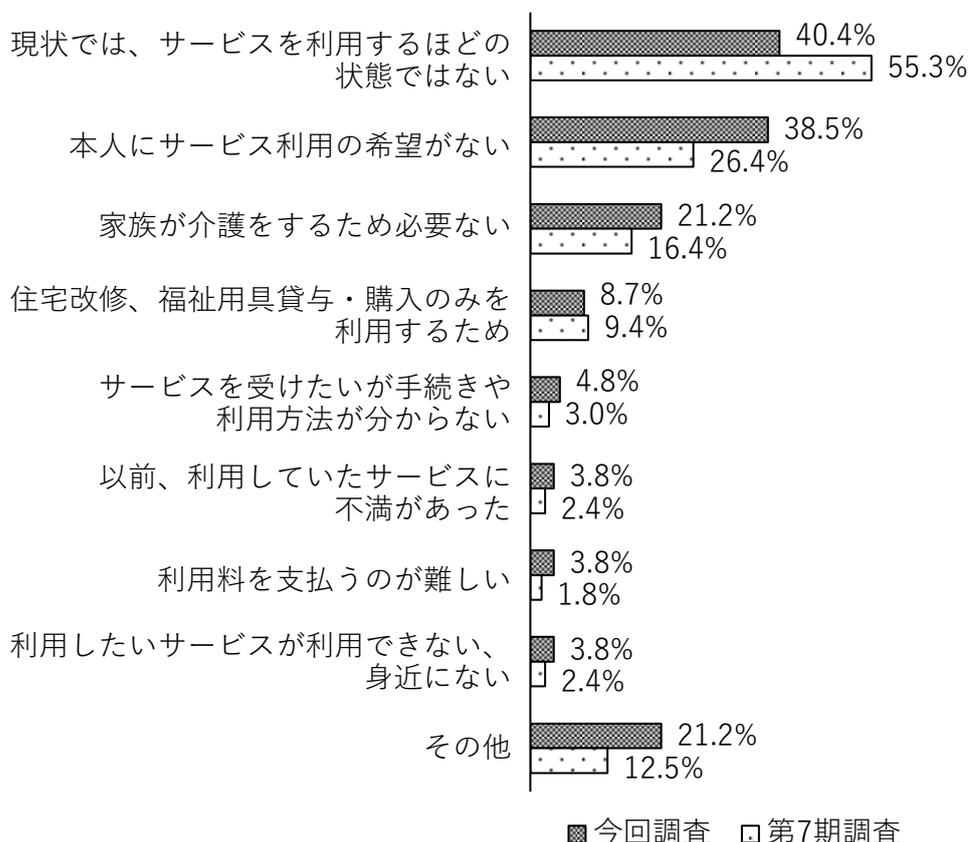
問12で「2」と回答した方にお伺いします。

問12-② 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数選択可)

【N=104、329(第7期調査)】

介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が40.4%と最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」(38.5%)、「家族が介護をするため必要ない」(21.2%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「本人にサービス利用の希望がない」が12.1ポイント上昇する一方、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」は14.9ポイント低下しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要支援1』『要支援2』では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が、『要介護1』『要介護3』では「本人にサービス利用の希望がない」が、『要介護4』では「その他」が、それぞれ最も高くなっています。『要介護2』では「家族が介護をするため必要ない」と「その他」が、『要介護5』では「本人にサービス利用の希望がない」「家族が介護をするため必要ない」「その他」が同率となっています。

	合計	の状況を 利用する ほどは ない	現状では、 サービス を利用 しない	本人にサ ービス 利用 希望 がない	家族が 介護を する ため 必要 ない	があつ た	がサ ービ スに 不 満	以前、 利用 して ない	が利 用料 を支 払う の 難 い	い、 身 近 に な い	ス が 利 用 し た い な い	利用 した い な い	を利 用す るた め	具貸 与・ 購 入の み	住宅 改修 、福 祉用 具	方 法 が 分 か ら な い	い が 手 続 き を 受 け た り な い	サ ー ビ ス を 受 け た り な い	そ の 他
全体	102	40.2	38.2	21.6	3.9	3.9	3.9	8.8	4.9	20.6									
要支援1	18	72.2	22.2	5.6	-	5.6	-	16.7	5.6	5.6									
要支援2	34	55.9	32.4	26.5	5.9	2.9	5.9	5.9	2.9	26.5									
要介護1	29	27.6	65.5	24.1	6.9	-	3.4	6.9	6.9	10.3									
要介護2	9	11.1	11.1	33.3	-	11.1	11.1	11.1	-	33.3									
要介護3	6	-	50.0	-	-	16.7	-	-	16.7	16.7									
要介護4	4	-	-	25.0	-	-	-	25.0	-	75.0									
要介護5	2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0									

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『単身世帯』『その他』では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が、『夫婦のみ世帯』では「本人にサービス利用の希望がない」が、それぞれ最も高くなっています。また、『その他』では「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」(15.0%)が他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	の状況を 利用する ほどは ない	現状では、 サービス を利用 しない	本人にサ ービス 利用 希望 がない	家族が 介護を する ため 必要 ない	があつ た	がサ ービ スに 不 満	以前、 利用 して ない	が利 用料 を支 払う の 難 い	い、 身 近 に な い	ス が 利 用 し た い な い	利用 した い な い	を利 用す るた め	具貸 与・ 購 入の み	住宅 改修 、福 祉用 具	方 法 が 分 か ら な い	い が 手 続 き を 受 け た り な い	サ ー ビ ス を 受 け た り な い	そ の 他
全体	100	41.0	40.0	21.0	4.0	4.0	4.0	9.0	4.0	20.0									
単身世帯	22	36.4	31.8	13.6	9.1	4.5	4.5	4.5	4.5	22.7									
夫婦のみ世帯	38	42.1	47.4	21.1	-	2.6	5.3	5.3	2.6	23.7									
その他	40	42.5	37.5	25.0	5.0	5.0	2.5	15.0	5.0	15.0									

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』『鈴鹿中部』『亀山』では「本人にサービス利用の希望がない」が、『鈴鹿北部』では「その他」が、『鈴鹿南部』では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が、それぞれ最も高くなっています。また、『鈴鹿西部』では「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」(17.6%)が、『鈴鹿中部』では「利用したいサービスが利用できない、身近にない」(10.5%)が、それぞれ他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

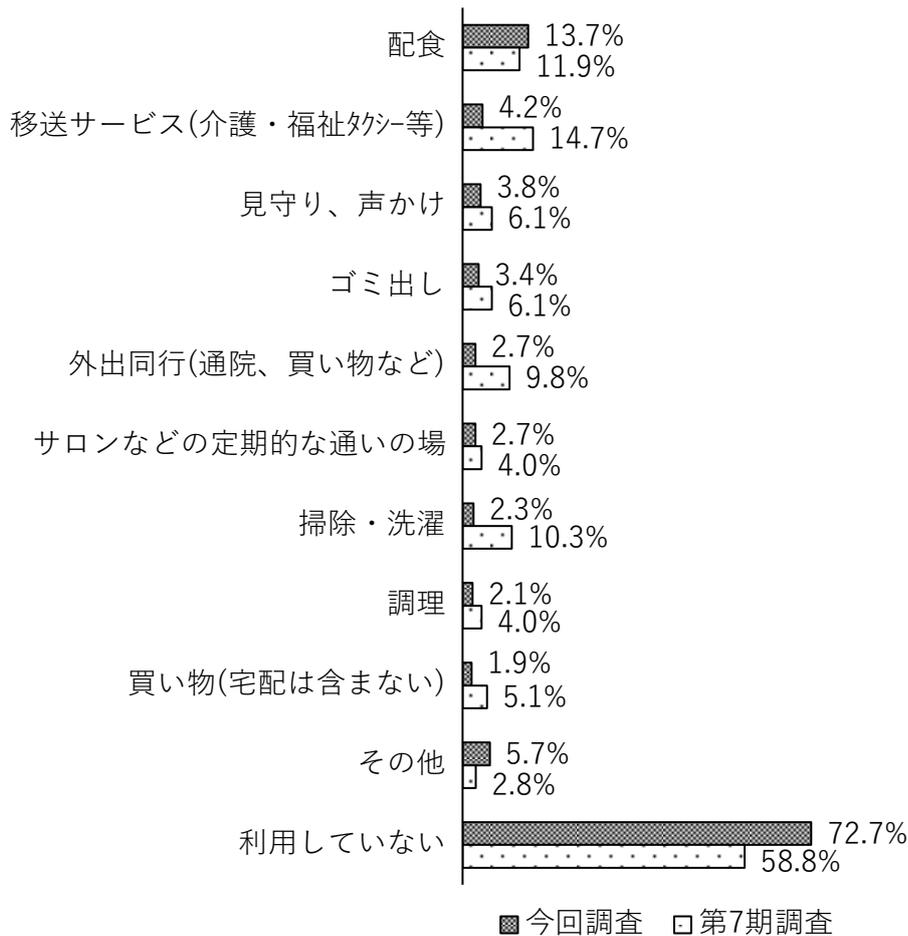
	合計	現状では、サービスを利用するほどではない	本人にサービス利用しない	家族が介護をするため必要ない	があつたサービスに不満	以前、利用して	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが身近にない	利用したため	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみ	方法が分からな	サービスを受け	その他
全体	103	39.8	37.9	21.4	3.9	3.9	3.9	8.7	4.9	21.4			
鈴鹿西部	17	29.4	35.3	29.4	11.8	11.8	-	17.6	-	17.6			
鈴鹿北部	17	29.4	35.3	29.4	5.9	-	-	5.9	5.9	41.2			
鈴鹿中部	19	47.4	52.6	31.6	5.3	-	10.5	5.3	-	21.1			
鈴鹿南部	23	52.2	26.1	13.0	-	-	4.3	4.3	4.3	26.1			
亀山	27	37.0	40.7	11.1	-	7.4	3.7	11.1	11.1	7.4			

再びすべての方にお伺いします。

問13 ご本人が現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(複数選択可) 【N=527、1,167(第7期調査)】

現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについては、「利用していない」が72.7%と突出して高くなっています。利用している支援・サービスとしては、「配食」が13.7%ありますが、その他はいずれも6%未満と低くなっています。

第7期調査と比較すると、「利用していない」が13.9ポイント上昇する一方、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」は10.5ポイント低下しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要介護1』『要介護3』では「配食」がそれぞれ20.2%、21.3%と、他の要介護度に比べて高くなっています。

	合計	配食	調理	掃除・洗濯	買わない物（宅配は含）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	等）	移送サービス（介護・福祉タクシー）	見守り、声かけ	的な通いの場	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない
全体	517	13.7	2.1	2.1	1.9	3.5	2.7	4.1	3.9	2.7	5.6	72.7		
要支援1	57	12.3	1.8	-	1.8	5.3	5.3	5.3	3.5	5.3	3.5	70.2		
要支援2	102	9.8	1.0	1.0	2.0	2.9	1.0	2.0	2.9	2.9	6.9	72.5		
要介護1	124	20.2	2.4	2.4	2.4	4.8	3.2	1.6	5.6	4.8	2.4	71.8		
要介護2	109	8.3	2.8	3.7	1.8	1.8	3.7	6.4	4.6	1.8	1.8	79.8		
要介護3	61	21.3	3.3	1.6	1.6	1.6	1.6	3.3	3.3	-	8.2	70.5		
要介護4	44	11.4	2.3	4.5	2.3	6.8	2.3	6.8	2.3	-	13.6	68.2		
要介護5	20	10.0	-	-	-	-	-	10.0	-	-	20.0	65.0		

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「利用していない」が最も高く、特に『鈴鹿北部』では84.4%と高くなっています。

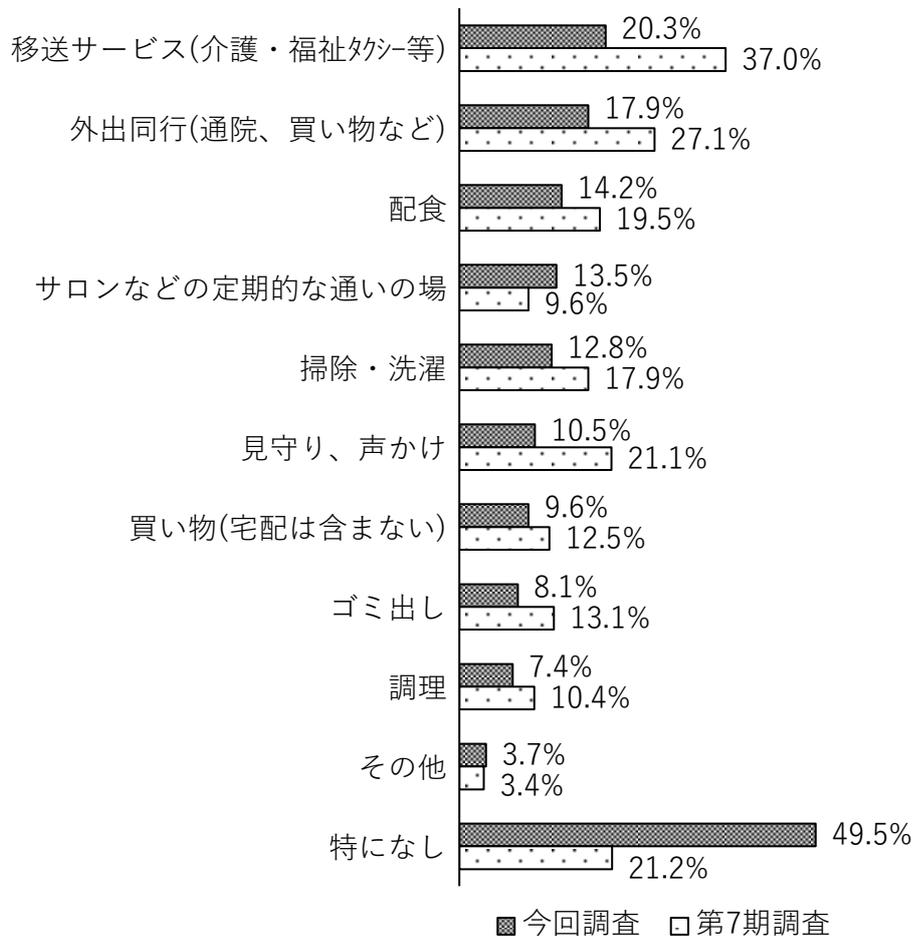
	合計	配食	調理	掃除・洗濯	買わない物（宅配は含）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	等）	移送サービス（介護・福祉タクシー）	見守り、声かけ	的な通いの場	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない
全体	525	13.5	2.1	2.3	1.9	3.4	2.7	4.0	3.8	2.7	5.7	72.8		
鈴鹿西部	98	14.3	1.0	1.0	2.0	4.1	1.0	3.1	4.1	-	2.0	77.6		
鈴鹿北部	96	10.4	1.0	1.0	2.1	2.1	3.1	1.0	1.0	1.0	2.1	84.4		
鈴鹿中部	118	14.4	2.5	2.5	1.7	4.2	3.4	5.9	4.2	4.2	5.1	71.2		
鈴鹿南部	116	14.7	0.9	3.4	1.7	2.6	1.7	6.0	4.3	1.7	7.8	66.4		
亀山	97	13.4	5.2	3.1	2.1	4.1	4.1	3.1	5.2	6.2	11.3	66.0		

問14 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください。(複数選択可)

【N=541、1,051(第7期調査)】

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「特になし」が49.5%と最も高くなっています。必要と感じる支援・サービスとしては、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(20.3%)、「外出同行(通院、買い物など)」(17.9%)、「配食」(14.2%)などが挙がっています。

第7期調査と比較すると、「特になし」が28.3ポイント上昇しています。一方、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」は16.7ポイント、「見守り、声かけ」は10.6ポイント、「外出同行(通院、買い物など)」は9.2ポイント、それぞれ低下しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、必要と感じる支援・サービスとしては、『要支援1』では「配食」と「サロンなどの定期的な通いの場」が、『要支援2』『要介護1』では「外出同行」が、『要介護3』では「見守り、声かけ」が、『要介護2』『要介護4』『要介護5』では「移送サービス」が、それぞれ最も高くなっています。

	合計	配食	調理	掃除・洗濯	買わない物（宅配は含）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	等（福祉サービス）	移送サービス（介護）	見守り、声かけ	的な通いの場	サロンの定期	その他	特になし
全体	531	14.5	7.5	12.6	9.6	8.3	18.1	20.2	10.7	13.7	3.6	49.9		
要支援1	56	16.1	-	8.9	5.4	8.9	8.9	14.3	3.6	16.1	3.6	50.0		
要支援2	106	16.0	7.5	17.0	10.4	10.4	22.6	20.8	6.6	10.4	1.9	49.1		
要介護1	129	14.7	7.0	11.6	11.6	7.8	17.1	15.5	13.2	15.5	2.3	53.5		
要介護2	111	17.1	11.7	14.4	12.6	12.6	20.7	23.4	9.9	12.6	1.8	46.8		
要介護3	63	14.3	9.5	12.7	7.9	3.2	15.9	20.6	22.2	15.9	7.9	49.2		
要介護4	46	4.3	4.3	6.5	6.5	4.3	17.4	28.3	10.9	13.0	6.5	47.8		
要介護5	20	10.0	10.0	10.0	-	-	20.0	25.0	5.0	15.0	10.0	55.0		

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、必要と感じる支援・サービスとしては、『単身世帯』では「外出同行」が24.1%と最も高く、「掃除・洗濯」「配食」なども20%を超えて高くなっています。『夫婦のみ世帯』『その他』では「移送サービス」が最も高くなっています。

	合計	配食	調理	掃除・洗濯	買わない物（宅配は含）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	等（福祉サービス）	移送サービス（介護）	見守り、声かけ	的な通いの場	サロンの定期	その他	特になし
全体	536	14.2	7.5	12.7	9.5	8.2	17.7	20.1	10.3	13.4	3.5	49.8		
単身世帯	145	20.0	12.4	22.1	15.9	15.9	24.1	16.6	17.2	13.1	5.5	37.2		
夫婦のみ世帯	116	19.0	8.6	19.0	12.1	12.1	17.2	29.3	7.8	19.8	3.4	41.4		
その他	275	9.1	4.4	5.1	5.1	2.5	14.5	18.2	7.6	10.9	2.5	60.0		

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、必要と感じる支援・サービスとしては、『鈴鹿西部』では「外出同行」が、『鈴鹿北部』では「サロンなどの定期的な通いの場」が、その他の日常生活圏域ではいずれも「移送サービス」が、それぞれ最も高くなっています。

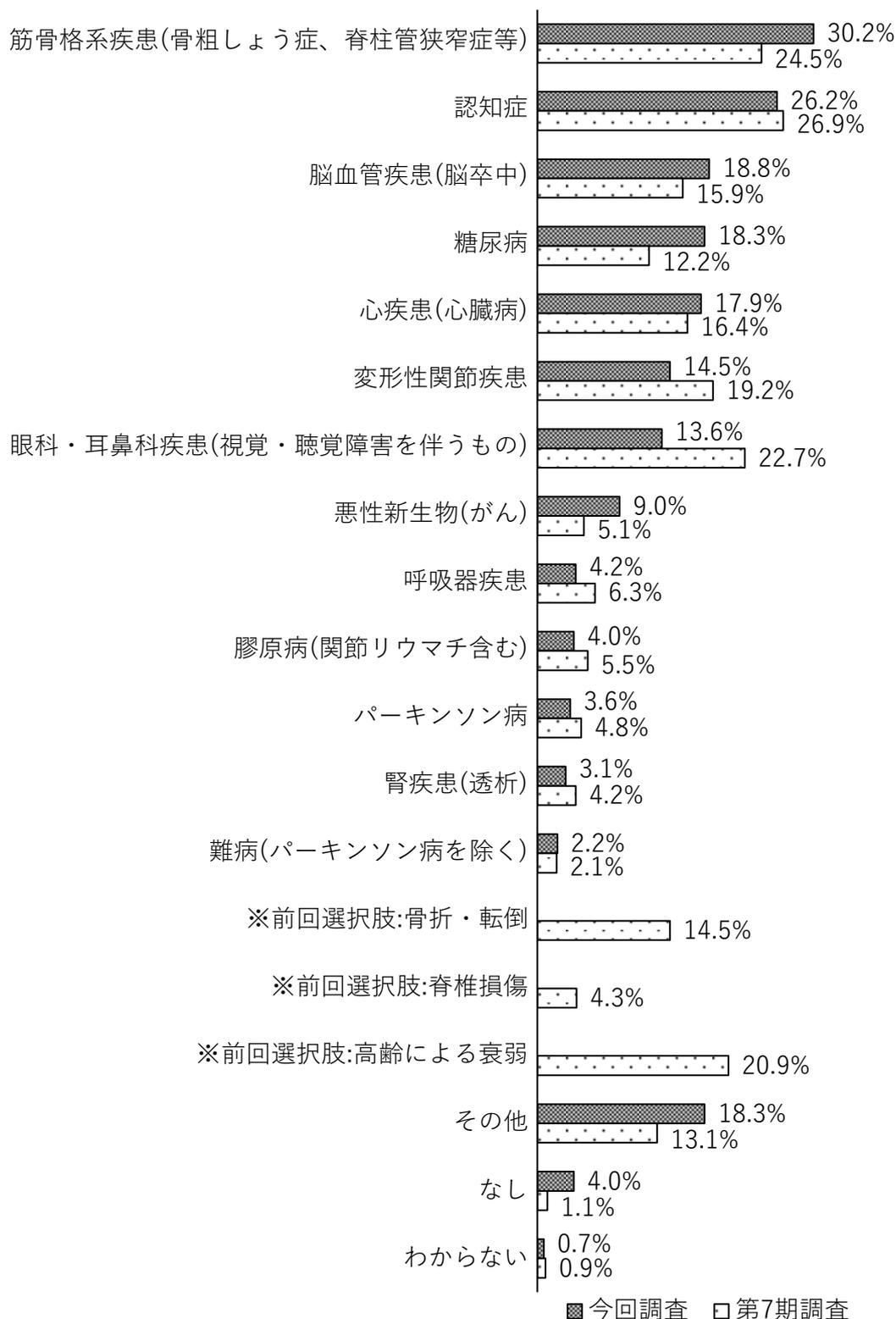
	合計	配食	調理	掃除・洗濯	買わない物（宅配は含）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし
全体	539	14.3	7.4	12.6	9.6	8.2	18.0	20.4	10.6	13.5	3.7	49.5
鈴鹿西部	104	11.5	7.7	9.6	7.7	5.8	18.3	14.4	7.7	3.8	4.8	55.8
鈴鹿北部	102	13.7	5.9	11.8	12.7	7.8	18.6	21.6	12.7	33.3	2.0	41.2
鈴鹿中部	122	19.7	9.0	13.1	10.7	11.5	18.0	20.5	7.4	17.2	3.3	48.4
鈴鹿南部	117	16.2	10.3	14.5	9.4	9.4	18.8	23.1	11.1	6.0	6.0	48.7
亀山	94	8.5	3.2	13.8	7.4	5.3	16.0	22.3	14.9	7.4	2.1	54.3

在宅医療などについて

問15 ご本人が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。(複数選択可)

【N=553、982(第7期調査)】

現在抱えている傷病については、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が30.2%と最も高く、次いで「認知症」(26.2%)、「脳血管疾患(脳卒中)」(18.8%)と続いています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『64歳未満』の男女では「脳血管疾患」が、『85歳以上』男女と『75～84歳女性』では「筋骨格系疾患」が、『75～84歳男性』では「認知症」が、それぞれ最も高くなっています。また、『65～74歳男性』では「脳血管疾患」と「糖尿病」が、『65～74歳女性』では「糖尿病」と「その他」が同率で高くなっています。

		合計	脳血管疾患	心疾患	悪性新生物	呼吸器疾患	腎疾患	患筋骨格系疾	膠原病	変形性関節疾患
男性	全体	189	26.5	20.6	14.8	7.9	3.7	23.8	3.2	7.4
	64歳未満	11	54.5	27.3	9.1	9.1	18.2	45.5	9.1	-
	65～74歳	31	45.2	12.9	9.7	3.2	6.5	6.5	6.5	6.5
	75～84歳	71	22.5	18.3	18.3	9.9	2.8	21.1	1.4	2.8
	85歳以上	76	18.4	25.0	14.5	7.9	1.3	30.3	2.6	13.2
女性	全体	363	14.9	16.5	6.1	2.2	2.8	33.6	4.4	18.2
	64歳未満	14	64.3	7.1	14.3	-	14.3	7.1	7.1	14.3
	65～74歳	28	25.0	17.9	10.7	-	3.6	21.4	7.1	25.0
	75～84歳	134	11.2	10.4	6.0	3.0	2.2	39.6	6.0	15.7
	85歳以上	187	12.3	21.4	4.8	2.1	2.1	33.2	2.7	19.3

		認知症	ンパーキンソン病	難病	糖尿病	眼科疾患・耳鼻科	その他	なし	わからない
男性	全体	24.3	3.2	2.6	26.5	14.3	19.0	2.1	0.5
	64歳未満	-	-	9.1	45.5	9.1	9.1	-	-
	65～74歳	22.6	9.7	6.5	45.2	16.1	19.4	-	-
	75～84歳	32.4	2.8	1.4	19.7	11.3	25.4	2.8	1.4
	85歳以上	21.1	1.3	1.3	22.4	17.1	14.5	2.6	-
女性	全体	27.3	3.9	1.9	13.8	13.2	17.9	5.0	0.8
	64歳未満	14.3	-	7.1	14.3	7.1	21.4	-	-
	65～74歳	7.1	-	3.6	28.6	21.4	28.6	3.6	-
	75～84歳	28.4	6.0	1.5	16.4	9.7	19.4	3.7	-
	85歳以上	30.5	3.2	1.6	9.6	15.0	15.0	6.4	1.6

要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要支援1』では「心疾患」が、『要支援2』『要介護2』では「筋骨格系疾患」が、その他の要介護度では「認知症」が最も高くなっています。また、『要介護5』では「糖尿病」も同率で高くなっています。

	合計	脳血管疾患	心疾患	悪性新生物	呼吸器疾患	腎疾患	患筋骨格系疾	膠原病	変形性関節疾患
全体	541	19.0	17.7	8.5	4.3	3.1	30.5	4.1	14.8
要支援1	57	8.8	33.3	5.3	-	1.8	28.1	1.8	24.6
要支援2	106	17.0	19.8	7.5	2.8	6.6	44.3	2.8	15.1
要介護1	131	11.5	8.4	8.4	6.1	2.3	24.4	3.1	14.5
要介護2	117	23.1	18.8	9.4	3.4	0.9	32.5	4.3	11.1
要介護3	61	24.6	18.0	3.3	8.2	1.6	24.6	6.6	9.8
要介護4	48	37.5	18.8	16.7	6.3	6.3	22.9	10.4	18.8
要介護5	21	23.8	14.3	14.3	-	4.8	28.6	-	14.3

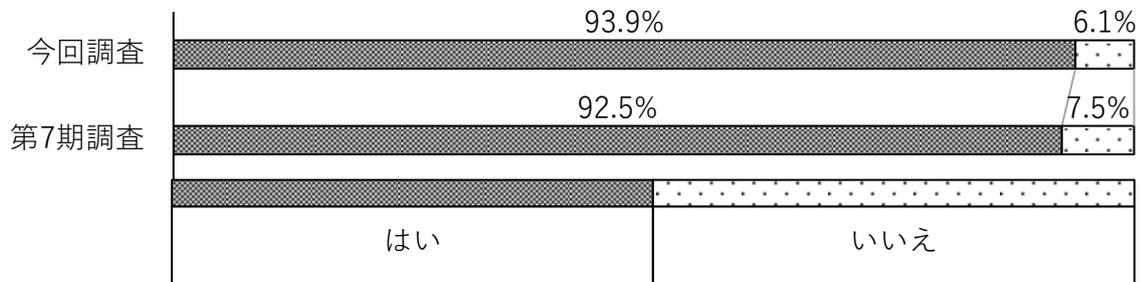
	認知症	ンパ 病 ー キン ソ	難病	糖尿病	科眼科 疾患・ 耳鼻	その他	なし	わからない
全体	26.6	3.7	2.2	18.3	13.7	17.9	4.1	0.7
要支援1	3.5	1.8	3.5	21.1	14.0	19.3	8.8	-
要支援2	1.9	-	1.9	23.6	16.0	17.9	3.8	-
要介護1	40.5	4.6	1.5	16.0	13.7	18.3	7.6	0.8
要介護2	26.5	2.6	2.6	16.2	12.0	22.2	1.7	1.7
要介護3	45.9	4.9	1.6	11.5	11.5	11.5	1.6	-
要介護4	41.7	10.4	2.1	14.6	18.8	12.5	-	2.1
要介護5	38.1	9.5	4.8	38.1	4.8	19.0	-	-

問16 ご本人は、現在、病院・医院(診療所、クリニック)に通院していますか。(1つを選択)

【N=560、1,514(第7期調査)】

現在の病院・医院への通院状況については、「はい」が93.9%を占めており、「いいえ」は6.1%となっています。

第7期調査と比較すると、「はい」が1.4ポイント上昇しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要支援1』では「はい」が100%となっています。一方、「いいえ」は要介護度が重くなるに従い割合も高くなり、『要介護5』では33.3%となっています。

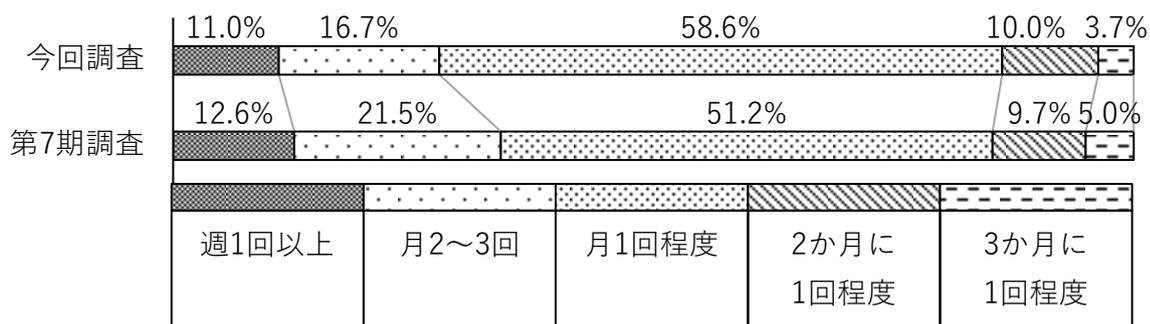
	合計	はい	いいえ
全体	548	94.3	5.7
要支援1	58	100.0	-
要支援2	108	99.1	0.9
要介護1	135	96.3	3.7
要介護2	117	94.9	5.1
要介護3	63	93.7	6.3
要介護4	46	82.6	17.4
要介護5	21	66.7	33.3

問16で「1」と回答した方にお伺いします。

問16-② その頻度は次のどれですか。(1つを選択) 【N=510、1,361(第7期調査)】

通院頻度については、「月1回程度」が過半数(58.6%)を占め、「月2～3回」は16.7%、「週1回以上」は11.0%となっています。

第7期調査と比較すると、「月1回程度」が7.4ポイント上昇する一方、「月2～3回」は4.8ポイント低下しています。



要介護度別クロス

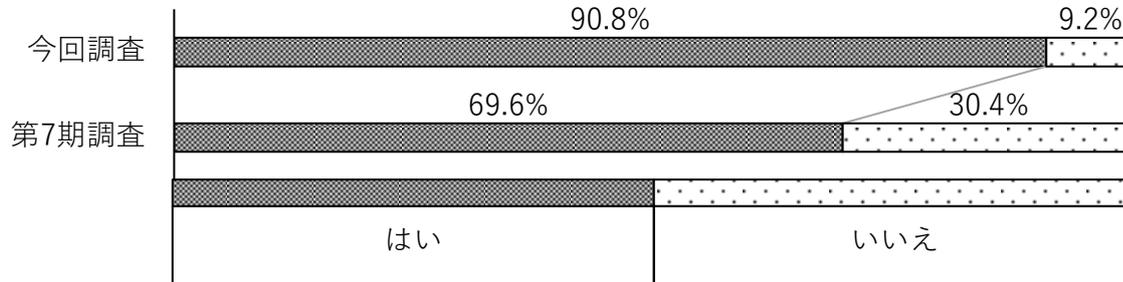
要介護度別にみると、いずれの要介護度でも「月1回程度」が最も高くなっています。『要介護4』では「月2～3回」(24.3%)が、『要介護5』では「週1回以上」(23.1%)が、それぞれ他の要介護度に比べて高くなっています。

	合計	週1回以上	月2～3回	月1回程度	程2か月に1回	程3か月に1回
全体	501	11.2	17.0	57.9	10.2	3.8
要支援1	57	12.3	12.3	66.7	8.8	-
要支援2	105	17.1	20.0	51.4	7.6	3.8
要介護1	125	6.4	19.2	61.6	9.6	3.2
要介護2	106	7.5	15.1	58.5	14.2	4.7
要介護3	58	10.3	12.1	55.2	13.8	8.6
要介護4	37	16.2	24.3	51.4	5.4	2.7
要介護5	13	23.1	7.7	61.5	7.7	-

問16-③ ご本人は、通院に介助が必要ですか。(1つを選択) 【N=478、1,327(第7期調査)】

通院に介助が必要かどうかについては、「はい」が90.8%を占め、「いいえ」は9.2%となっています。

第7期調査と比較すると、「はい」が21.2ポイント上昇しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要介護3』以上では「はい」が100%となっています。

	合計	はい	いいえ
全体	470	90.9	9.1
要支援1	47	61.7	38.3
要支援2	97	79.4	20.6
要介護1	123	97.6	2.4
要介護2	102	98.0	2.0
要介護3	52	100.0	-
要介護4	36	100.0	-
要介護5	13	100.0	-

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』『鈴鹿北部』『鈴鹿南部』では「はい」が90%を超えています。

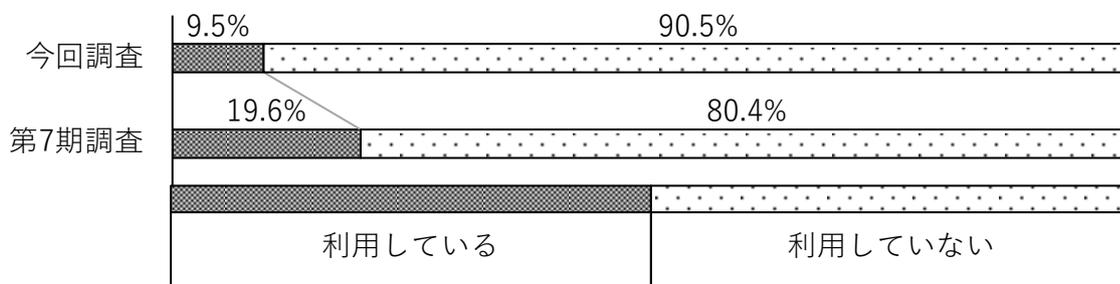
	合計	はい	いいえ
全体	476	91.0	9.0
鈴鹿西部	99	92.9	7.1
鈴鹿北部	92	94.6	5.4
鈴鹿中部	105	89.5	10.5
鈴鹿南部	95	90.5	9.5
亀山	85	87.1	12.9

再びすべての方にお伺いします。

問17 ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか。(1つを選択) 【N=558、514(第7期調査)】

訪問診療の利用状況については、「利用している」は9.5%となっており、「利用していない」が90.5%を占めています。

第7期調査と比較すると、「利用していない」が10.1ポイント上昇しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、要介護度が重くなるに従い「はい」の割合も高くなり、『要介護5』では38.1%となっています。

	合計	利用している (%)	利用していない (%)
全体	546	9.2	90.8
要支援1	58	1.7	98.3
要支援2	108	2.8	97.2
要介護1	135	5.2	94.8
要介護2	117	11.1	88.9
要介護3	60	11.7	88.3
要介護4	47	23.4	76.6
要介護5	21	38.1	61.9

日常生活圏域別クロス

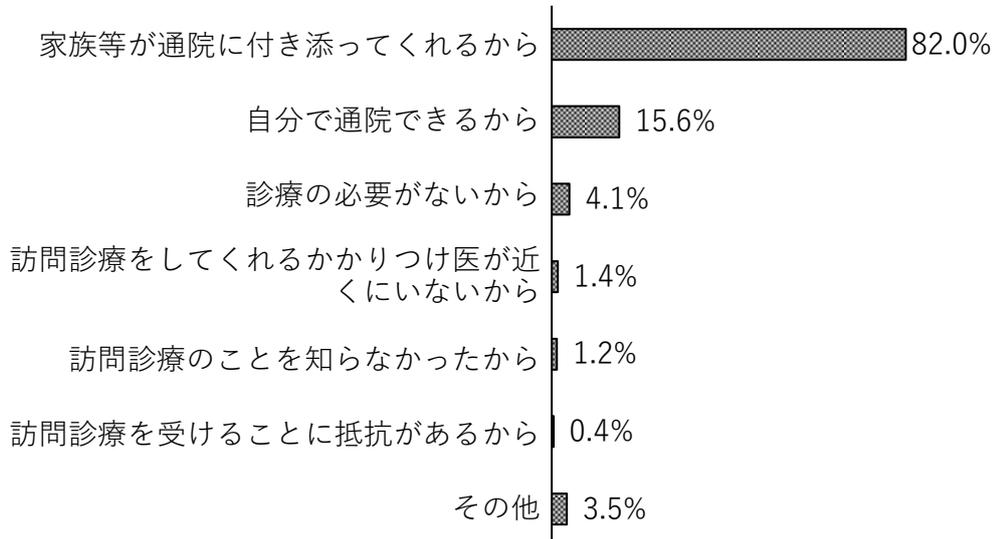
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿北部』『鈴鹿中部』『亀山』では「利用している」がいずれも11%程度ありますが、『鈴鹿西部』では4.5%と低くなっています。

	合計	利用している (%)	利用していない (%)
全体	556	9.5	90.5
鈴鹿西部	112	4.5	95.5
鈴鹿北部	105	11.4	88.6
鈴鹿中部	122	11.5	88.5
鈴鹿南部	119	9.2	90.8
亀山	98	11.2	88.8

問17で「2」と回答した方にお伺いします。

問17-② 「訪問診療」を受けていない理由は何ですか。(複数選択可) 【N=488】

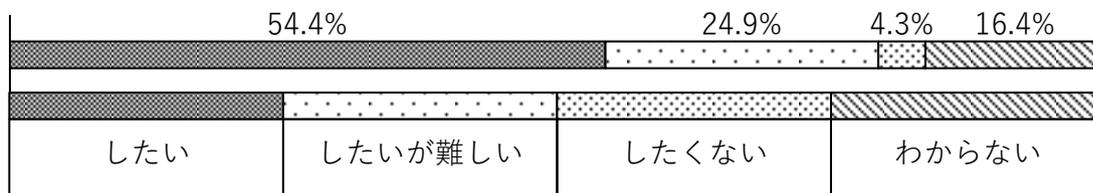
訪問診療を受けていない理由については、「家族等が通院に付き添ってくれるから」が82.0%と突出して高くなっています。次いで、「自分で通院できるから」が15.6%と続いています。



再びすべての方にお伺いします。

問18 あなたは、自宅で最期まで療養したいと思いますか。(1つを選択) 【N=562】

自宅で最期まで療養したいと思うかについては、「したい」が過半数(54.4%)を占め、「したいが難しい」が24.9%と続いています。一方、「したくない」は4.3%となっています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「したい」が最も高くなっており、特に『64歳未満女性』では64.3%と高くなっています。75歳以上では女性より男性の方が「したい」は高くなっています。また、『64歳未満男性』では「したいが難しいと思う」(36.4%)が他の性・年齢に比べて高くなっています。

		合計	したい	したい と思う が難 しい	した くない	わ か ら ない
男性	全体	191	55.0	27.2	2.1	15.7
	64歳未満	11	45.5	36.4	-	18.2
	65～74歳	32	50.0	28.1	6.3	15.6
	75～84歳	71	54.9	26.8	1.4	16.9
	85歳以上	77	58.4	26.0	1.3	14.3
女性	全体	370	54.3	23.5	5.4	16.8
	64歳未満	14	64.3	-	-	35.7
	65～74歳	29	58.6	13.8	-	27.6
	75～84歳	137	50.4	27.0	7.3	15.3
	85歳以上	190	55.8	24.2	5.3	14.7

要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要支援1』『要介護3』では「したい」が60%を超えて高くなっています。『要介護5』では「したいが難しいと思う」(38.1%)が、『要介護4』では「したくない」(10.4%)が、それぞれ他の要介護度に比べて高くなっています。

	合計	したい	としたいが難しい	したくない	わからない
全体	550	54.5	24.7	4.2	16.5
要支援1	56	60.7	19.6	5.4	14.3
要支援2	109	50.5	27.5	6.4	15.6
要介護1	134	55.2	24.6	3.0	17.2
要介護2	118	53.4	30.5	2.5	13.6
要介護3	64	60.9	12.5	1.6	25.0
要介護4	48	56.3	20.8	10.4	12.5
要介護5	21	38.1	38.1	-	23.8

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『夫婦のみ世帯』では「したい」(63.1%)が、『単身世帯』では「したいが難しいと思う」(29.7%)が、それぞれ他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	したい	としたいが難しい	したくない	わからない
全体	556	54.9	24.6	4.3	16.2
単身世帯	148	43.2	29.7	7.4	19.6
夫婦のみ世帯	122	63.1	23.8	1.6	11.5
その他	286	57.3	22.4	3.8	16.4

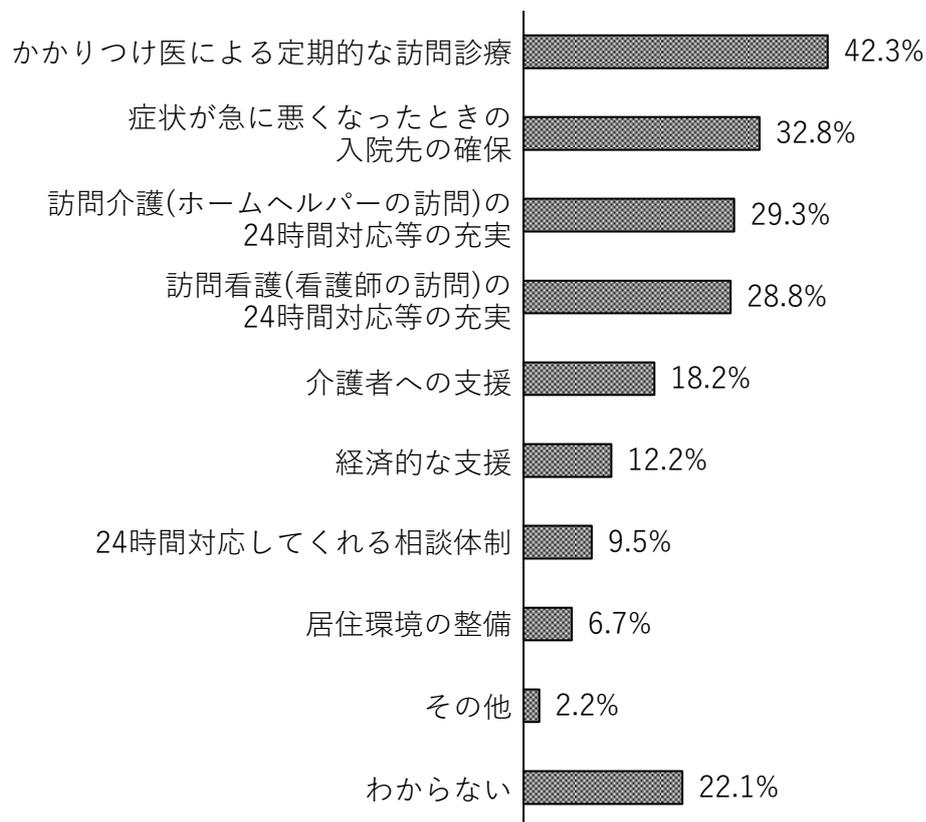
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿北部』『鈴鹿南部』では「したい」がそれぞれ59.4%、58.1%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。一方、『鈴鹿中部』では「したいが難しいと思う」(31.7%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	したい	としたいが難しい	したくない	わからない
全体	560	54.5	24.8	4.3	16.4
鈴鹿西部	112	53.6	25.9	2.7	17.9
鈴鹿北部	106	59.4	21.7	4.7	14.2
鈴鹿中部	123	51.2	31.7	6.5	10.6
鈴鹿南部	117	58.1	21.4	4.3	16.2
亀山	102	50.0	22.5	2.9	24.5

問19 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまでを選択)
【N=539】

自宅で最期まで療養するために必要なことについては、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が42.3%と最も高く、次いで「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」(32.8%)、「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の24時間対応等の充実」(29.3%)と続いています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要介護4』では「かかりつけ医による定期的な訪問診療」と「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が同率で高くなっていますが、その他の要介護度ではいずれも「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が最も高くなっています。特に『要介護5』では65.0%と高くなっています。また、『要介護3』では「訪問看護(看護師の訪問)の24時間対応等の充実」(39.3%)が他の要介護度に比べて高くなっています。

	合計	定期的な訪問診療にかかりつけ医による定	訪問看護(看護師の訪問)の24時間対応等の充実								
全体	528	41.7	28.6	28.6	9.7	17.8	32.6	6.8	12.1	2.3	22.5
要支援1	56	41.1	26.8	37.5	8.9	7.1	28.6	10.7	8.9	3.6	32.1
要支援2	103	36.9	25.2	29.1	8.7	17.5	30.1	7.8	16.5	2.9	23.3
要介護1	131	38.2	28.2	22.1	13.7	13.0	31.3	6.9	12.2	3.1	24.4
要介護2	112	49.1	31.3	26.8	4.5	25.9	37.5	4.5	10.7	0.9	19.6
要介護3	61	42.6	39.3	31.1	9.8	19.7	36.1	4.9	14.8	-	18.0
要介護4	45	33.3	17.8	31.1	13.3	20.0	33.3	11.1	8.9	4.4	20.0
要介護5	20	65.0	30.0	40.0	10.0	25.0	25.0	-	5.0	-	15.0

日常生活圏域別クロス

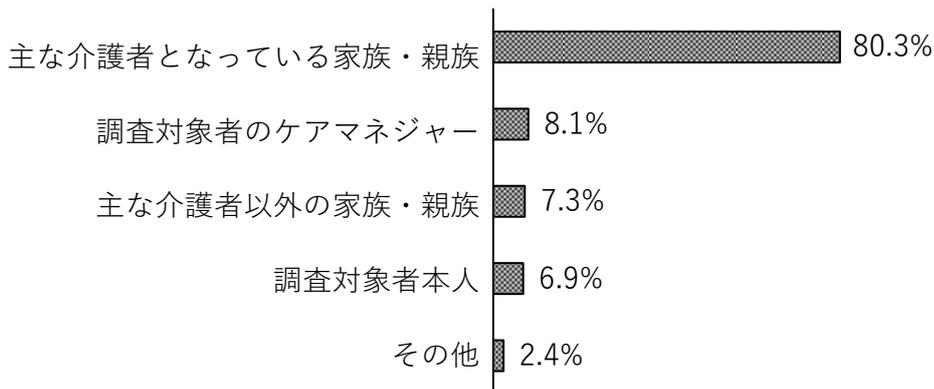
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿北部』では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が、その他の日常生活圏域ではいずれも「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が、それぞれ最も高くなっています。また、『亀山』では「訪問看護(看護師の訪問)の24時間対応等の充実」(40.2%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	定期的な訪問診療にかかりつけ医による定	訪問看護(看護師の訪問)の24時間対応等の充実								
全体	537	42.3	28.9	29.1	9.5	18.1	32.8	6.7	12.3	2.2	22.2
鈴鹿西部	108	44.4	27.8	36.1	9.3	14.8	31.5	8.3	14.8	2.8	18.5
鈴鹿北部	103	32.0	21.4	21.4	13.6	26.2	35.9	5.8	8.7	1.0	24.3
鈴鹿中部	120	45.0	30.0	30.8	5.0	14.2	35.0	9.2	15.8	1.7	22.5
鈴鹿南部	109	45.9	25.7	24.8	6.4	20.2	32.1	6.4	10.1	2.8	26.6
亀山	97	43.3	40.2	32.0	14.4	15.5	28.9	3.1	11.3	3.1	18.6

B票(主な介護者の方(または本人)にお答えいただく項目)

この調査票(B票)にお答えいただくのは、どなたですか。(複数選択可) 【N=422】

回答者については、「主な介護者となっている家族・親族」が80.3%と突出して高くなっています。以下、「調査対象者のケアマネジャー」(8.1%)、「主な介護者以外の家族・親族」(7.3%)、「調査対象者本人」(6.9%)と続いています。

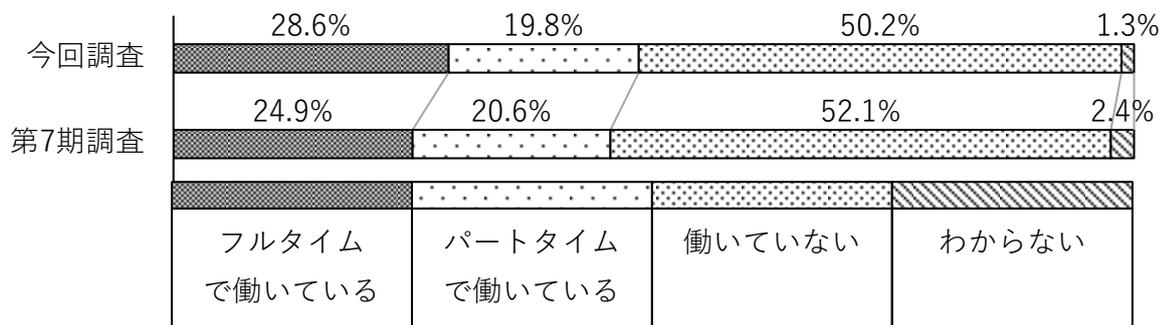


介護と就労について

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つを選択)

【N=454、918(第7期調査)】

主な介護者の現在の勤務形態については、「働いていない」が過半数(50.2%)を占め、「フルタイムで働いている」は28.6%、「パートタイムで働いている」は19.8%となっています。第7期調査と比較すると、「フルタイムで働いている」が3.7ポイント上昇しています。

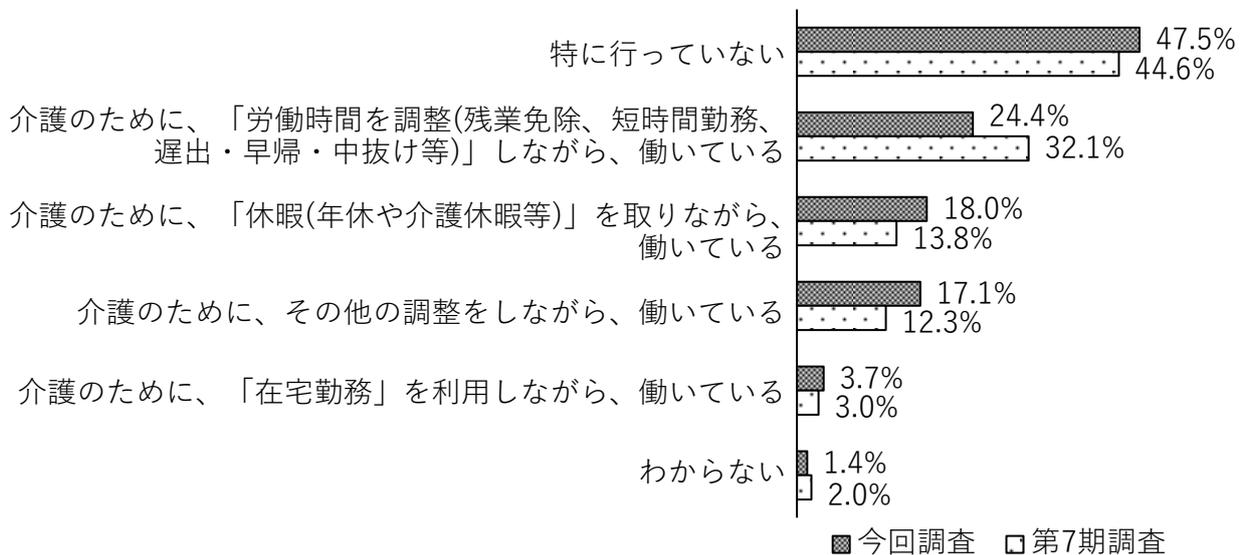


問1で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。

問1-② 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていま
すか。(複数選択可) 【N=217、399(第7期調査)】

働き方の調整等の状況については、「特に行っていない」が47.5%と最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(24.4%)、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(18.0%)と続いています。

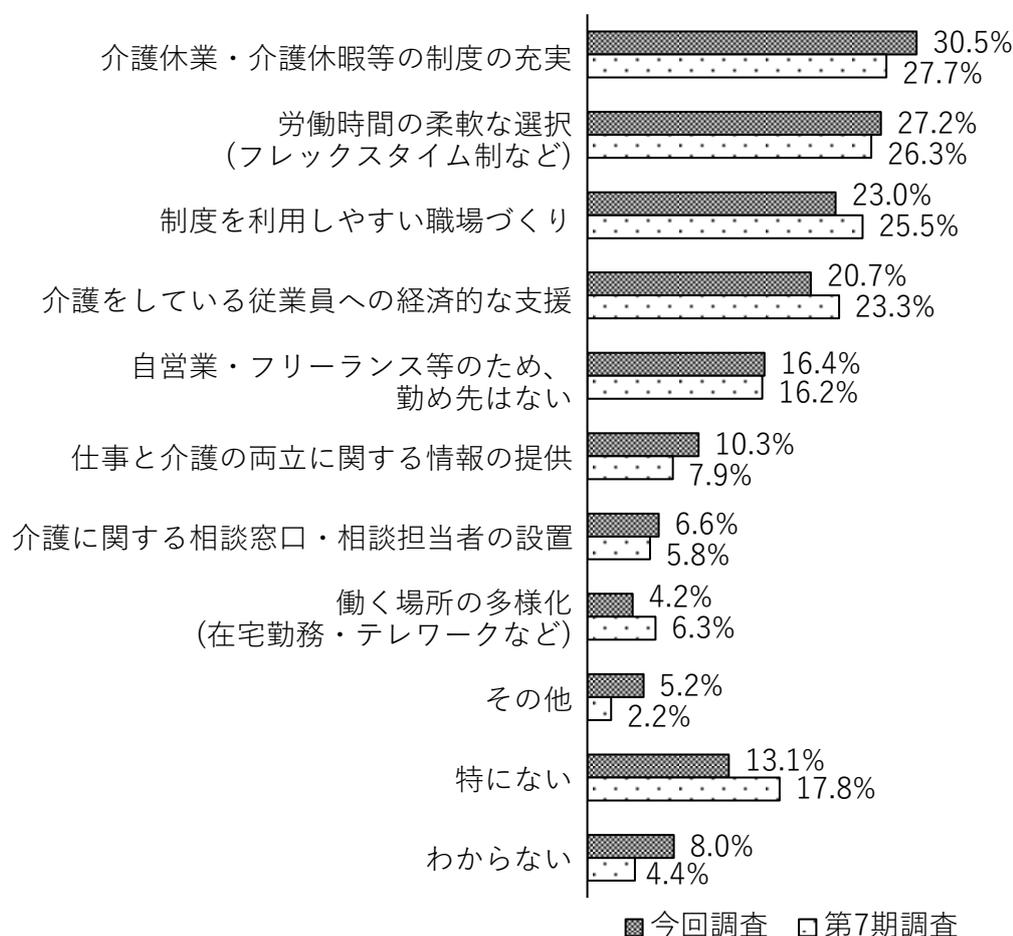
第7期調査と比較すると、「介護のために、その他の調整をしながら、働いている」が4.8ポイント、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が4.2ポイント、「特に行っていない」が2.9ポイント、それぞれ上昇する一方、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」は7.7ポイント低下しています。



問1-③ 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(3つまで選択可) 【N=213、365(第7期調査)】

仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が30.5%と最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(27.2%)、「制度を利用しやすい職場づくり」(23.0%)と続いています。一方、「特にない」は13.1%となっています。

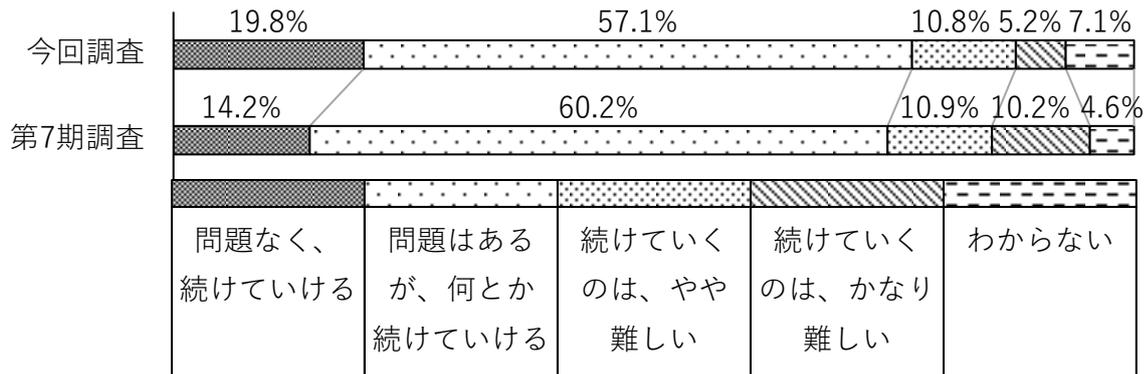
第7期調査と比較すると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が2.8ポイント、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」が2.4ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「特にない」は4.7ポイント、「介護をしている従業員への経済的な支援」は2.6ポイント、「制度を利用しやすい職場づくり」は2.5ポイント、それぞれ低下しています。



問1-④ 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つを選択)
【N=212、394(第7期調査)】

今後も働きながら介護を続けていけそうかどうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が57.1%を占め、「問題なく、続けていける」(19.8%)を合わせると『続けていける』は76.9%を占めています。一方、「続けていくのは、やや難しい」(10.8%)と「続けていくのは、かなり難しい」(5.2%)を合わせた『続けていくのは難しい』は16.0%となっています。

第7期調査と比較すると、『続けていける』が2.5ポイント上昇しています。



世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『夫婦のみ世帯』では『続けていける』が92.0%と、他の世帯類型に比べて特に高くなっています。一方、『単身世帯』では『続けていくのは難しい』(18.0%)が他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	問題なく、 続けて いける	問題 はあ るが、 続け てい ける 何	続 け て い く の は、 や や 難 し い	続 け て い く の は、 か な り 難 し い	わ か ら な い
全体	211	19.9	56.9	10.9	5.2	7.1
単身世帯	78	34.6	35.9	10.3	7.7	11.5
夫婦のみ世帯	25	16.0	76.0	8.0	-	-
その他	108	10.2	67.6	12.0	4.6	5.6

介護者別クロス

介護者別にみると、『兄弟・姉妹』では「問題なく、続けていける」が57.1%と最も高くなっていますが、その他の世帯類型ではいずれも「問題はあるが、何とか続けていけるが」が最も高くなっています。特に『配偶者』『子の配偶者』『孫』では『続けていける』が80%を超えて高くなっています。一方、『その他』では『続けていくのは難しい』(50.0%)が他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	い問題なく、 続ける	と問題はあ るが、何	や続け ていくの は、	か続け ていくの は、	わ か ら な い
全体	190	17.9	58.9	11.1	5.3	6.8
配偶者	36	16.7	63.9	16.7	2.8	-
子	104	16.3	57.7	9.6	6.7	9.6
子の配偶者	33	15.2	72.7	9.1	3.0	-
孫	6	16.7	66.7	-	-	16.7
兄弟・姉妹	7	57.1	14.3	14.3	-	14.3
その他	4	25.0	-	25.0	25.0	25.0

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿北部』では『続けていける』が86.7%と、他の日常生活圏域に比べて特に高くなっています。一方、『鈴鹿中部』『亀山』では『続けていくのは難しい』(21.7%、20.6%)が他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	い問題なく、 続ける	と問題はあ るが、何	や続け ていくの は、	か続け ていくの は、	わ か ら な い
全体	212	19.8	57.1	10.8	5.2	7.1
鈴鹿西部	39	12.8	61.5	10.3	7.7	7.7
鈴鹿北部	45	15.6	71.1	6.7	-	6.7
鈴鹿中部	46	21.7	54.3	13.0	8.7	2.2
鈴鹿南部	48	25.0	50.0	10.4	4.2	10.4
亀山	34	23.5	47.1	14.7	5.9	8.8

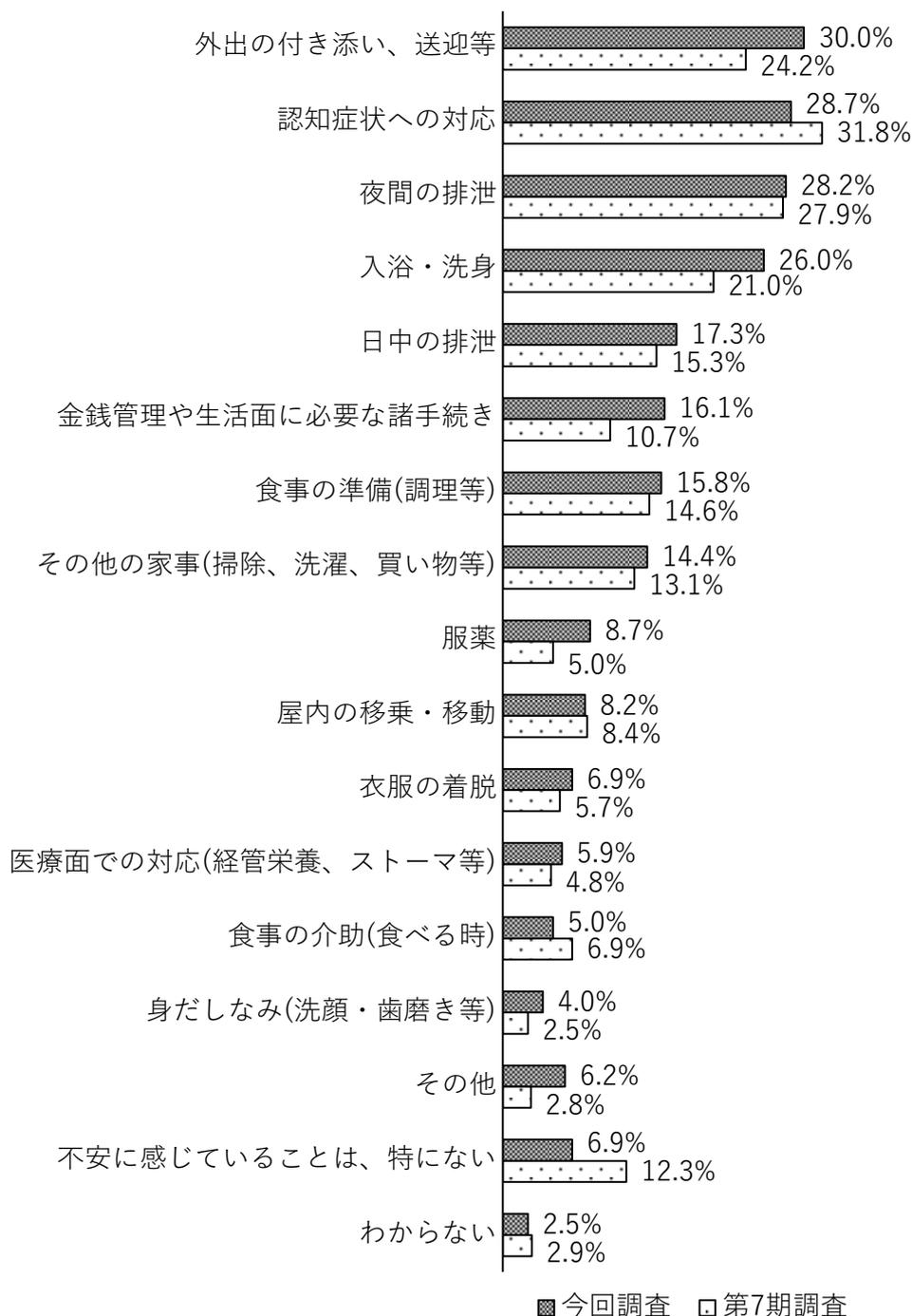
再びすべての方にお伺いします。

問2 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)。(3つまで選択可)

【N=404、796(第7期調査)】

不安に感じる介護等については、「外出の付き添い、送迎等」が30.0%と最も高く、次いで「認知症状への対応」(28.7%)、「夜間の排泄」(28.2%)、「入浴・洗身」(26.0%)と続いています。一方、「不安に感じていることは、特にない」は6.9%となっています。

第7期調査と比較すると、「外出の付き添い、送迎等」が5.8ポイント、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が5.4ポイント、「入浴・洗身」が5.0ポイント、それぞれ上昇する一方、「不安に感じていることは、特にない」は5.4ポイント低下しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要支援1』『要支援2』では「外出の付き添い、送迎等」が、『要介護1』では「認知症状への対応」が、『要介護2』では「夜間の排泄」が、『要介護3』では「日中の排泄」が、『要介護4』『要介護5』では「入浴・洗身」が、それぞれ最も高くなっています。また、『要介護5』では「屋内の移乗・移動」(31.3%)が他の要介護度に比べて特に高くなっています。

	合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等
全体	397	17.4	28.0	4.8	25.7	4.0	7.1	7.8	30.0
要支援1	41	4.9	24.4	4.9	26.8	2.4	-	2.4	31.7
要支援2	77	13.0	11.7	2.6	28.6	2.6	2.6	7.8	41.6
要介護1	102	17.6	30.4	6.9	18.6	4.9	6.9	3.9	28.4
要介護2	86	17.4	41.9	2.3	31.4	5.8	8.1	8.1	27.9
要介護3	40	40.0	32.5	7.5	15.0	7.5	12.5	7.5	20.0
要介護4	35	17.1	22.9	2.9	28.6	-	14.3	14.3	25.7
要介護5	16	12.5	25.0	12.5	43.8	-	12.5	31.3	25.0

	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	洗濯、買い物等（掃除、その他家事）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていること、特にない	わからない
全体	8.8	29.0	5.8	16.1	14.6	16.4	6.0	6.8	2.5
要支援1	9.8	12.2	2.4	17.1	24.4	4.9	9.8	19.5	-
要支援2	5.2	15.6	6.5	19.5	20.8	28.6	9.1	3.9	3.9
要介護1	9.8	42.2	5.9	20.6	13.7	13.7	3.9	3.9	3.9
要介護2	11.6	33.7	5.8	14.0	12.8	15.1	7.0	5.8	1.2
要介護3	10.0	35.0	5.0	17.5	7.5	17.5	2.5	5.0	2.5
要介護4	5.7	22.9	8.6	5.7	8.6	20.0	5.7	8.6	2.9
要介護5	6.3	25.0	6.3	-	6.3	-	-	12.5	-

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『単身世帯』では「外出の付き添い、送迎等」が、『夫婦のみ世帯』では「入浴・洗身」と「外出の付き添い、送迎等」が、『その他』では「夜間の排泄」が、それぞれ最も高くなっています。また、『単身世帯』では「服薬」(12.6%)が他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等
全体	401	17.0	28.2	5.0	25.4	4.0	7.0	8.2	30.2
単身世帯	103	13.6	21.4	5.8	20.4	3.9	2.9	6.8	30.1
夫婦のみ世帯	94	10.6	22.3	3.2	24.5	2.1	7.4	8.5	24.5
その他	204	21.6	34.3	5.4	28.4	4.9	8.8	8.8	32.8
	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	洗濯、買物等（掃除、その他家事）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	わからない
全体	8.7	28.7	6.0	16.0	14.5	16.2	6.2	7.0	2.5
単身世帯	12.6	27.2	4.9	20.4	18.4	19.4	3.9	10.7	2.9
夫婦のみ世帯	6.4	23.4	8.5	18.1	19.1	12.8	14.9	8.5	2.1
その他	7.8	31.9	5.4	12.7	10.3	16.2	3.4	4.4	2.5

介護者別クロス

介護者別にみると、『配偶者』では「入浴・洗身」が、『子』『兄弟・姉妹』では「外出の付き添い、送迎等」が、『子の配偶者』では「認知症状への対応」が、『孫』では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が、『その他』では「夜間の排泄」が、それぞれ最も高くなっています。

	合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等
全体	356	18.0	28.7	5.3	27.2	4.5	7.6	8.4	29.2
配偶者	127	13.4	29.1	2.4	31.5	3.1	13.4	9.4	26.8
子	147	21.8	26.5	8.2	28.6	4.1	3.4	6.8	32.7
子の配偶者	51	23.5	33.3	3.9	13.7	3.9	3.9	7.8	29.4
孫	5	-	40.0	-	20.0	20.0	-	20.0	20.0
兄弟・姉妹	13	7.7	7.7	-	15.4	15.4	7.7	7.7	38.5
その他	13	15.4	46.2	15.4	38.5	7.7	15.4	15.4	7.7

	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	洗濯、買い物等（掃除、その他の家事）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	わからない
全体	8.4	28.9	5.9	15.2	14.0	16.0	6.5	6.2	2.0
配偶者	7.1	24.4	7.1	13.4	13.4	13.4	10.2	7.9	2.4
子	10.2	32.0	6.1	16.3	17.0	19.7	4.1	4.1	2.0
子の配偶者	7.8	39.2	3.9	17.6	5.9	9.8	3.9	5.9	2.0
孫	-	20.0	20.0	-	-	60.0	-	-	-
兄弟・姉妹	-	15.4	-	15.4	15.4	23.1	-	23.1	-
その他	15.4	15.4	-	15.4	23.1	-	15.4	-	-

利用状況別クロス

利用状況別にみると、『利用している』では「外出の付き添い、送迎等」が、『利用していない』では「入浴・洗身」が、それぞれ最も高くなっています。次いで『利用している』では「夜間の排泄」が、『利用していない』では「食事の準備(調理等)」が続いています。

	合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助 (食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ (洗顔・歯磨き等)	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等
全体	399	17.3	28.1	5.0	25.8	4.0	7.0	8.3	30.1
利用している	322	18.3	30.4	4.3	25.2	4.3	7.8	9.3	31.1
利用していない	77	13.0	18.2	7.8	28.6	2.6	3.9	3.9	26.0
	服薬	認知症状への対応	医療面での対応 (栄養、ストーマ等)	食事の準備 (調理等)	洗濯、買物等 (掃除、その他家事)	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	わからない
全体	8.8	28.8	6.0	16.0	14.0	15.5	6.3	7.0	2.5
利用している	8.7	29.8	5.6	13.4	12.4	14.6	5.3	7.8	2.8
利用していない	9.1	24.7	7.8	27.3	20.8	19.5	10.4	3.9	1.3

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、『軽度あるいは該当しない方』では「外出の付き添い、送迎等」が、『認知症の方』では「認知症状への対応」が、それぞれ最も高くなっています。次いで、『軽度あるいは該当しない方』では「入浴・洗身」が、『認知症の方』では「夜間の排泄」が続いています。

	合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	等 外出の付き添い、送迎
全体	397	17.4	28.0	4.8	25.7	4.0	7.1	7.8	30.0
軽度あるいは該当しない方	158	13.3	20.9	4.4	32.3	1.9	5.1	7.0	37.3
認知症の方	239	20.1	32.6	5.0	21.3	5.4	8.4	8.4	25.1
	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	洗濯、買い物等（掃除、その他家事）	金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	わからない
全体	8.8	29.0	5.8	16.1	14.6	16.4	6.0	6.8	2.5
軽度あるいは該当しない方	3.8	12.7	5.7	18.4	22.2	19.6	7.6	9.5	1.3
認知症の方	12.1	39.7	5.9	14.6	9.6	14.2	5.0	5.0	3.3

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』『鈴鹿中部』『亀山』では「外出の付き添い、送迎等」が、『鈴鹿北部』では「夜間の排泄」が、『鈴鹿南部』では「認知症状への対応」が、それぞれ最も高くなっています。

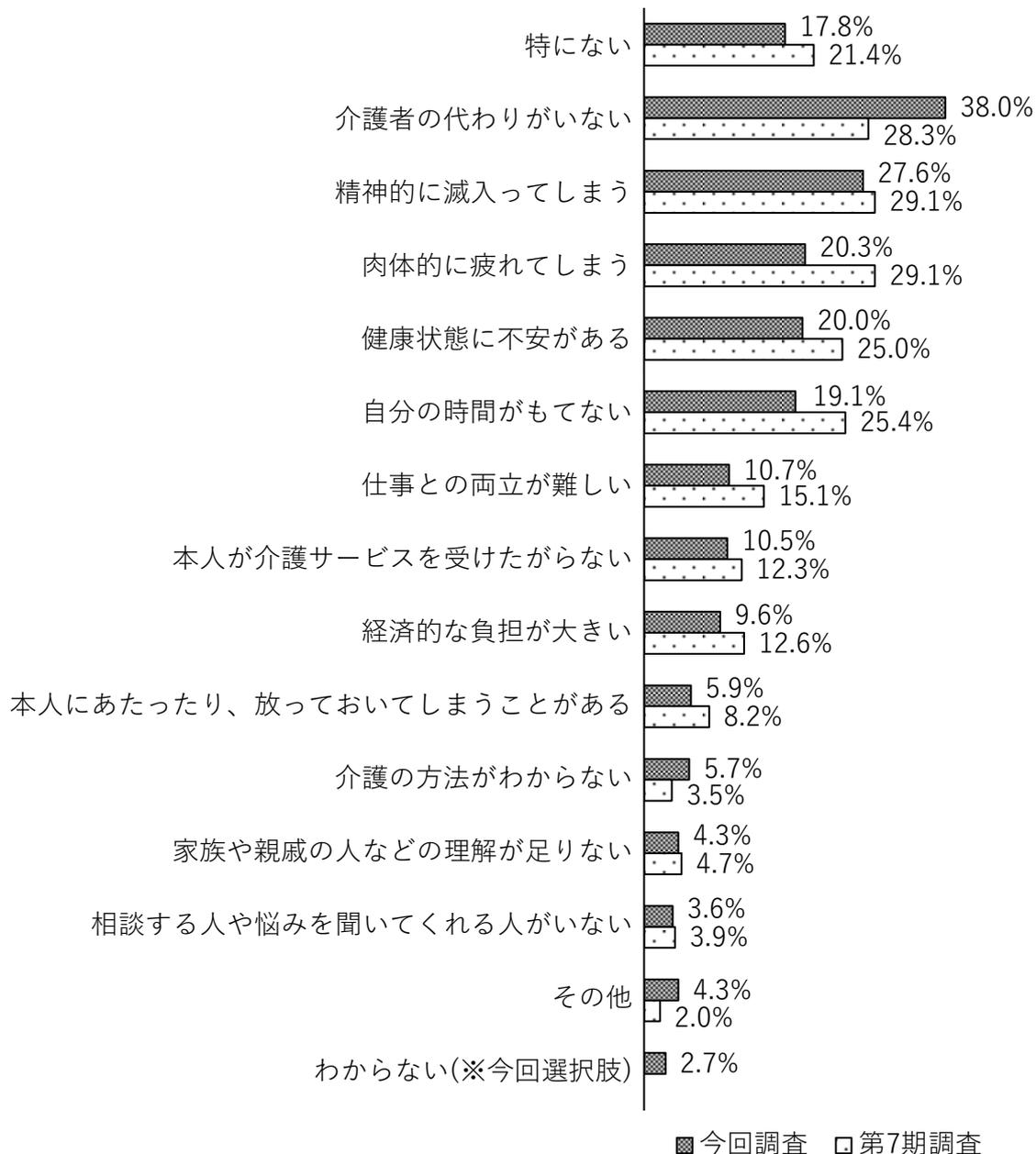
	合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等
全体	403	17.4	28.3	5.0	26.1	4.0	6.9	8.2	30.0
鈴鹿西部	74	14.9	32.4	2.7	28.4	5.4	9.5	8.1	39.2
鈴鹿北部	79	19.0	30.4	7.6	25.3	3.8	7.6	6.3	15.2
鈴鹿中部	84	16.7	26.2	6.0	25.0	4.8	8.3	9.5	29.8
鈴鹿南部	95	21.1	31.6	5.3	23.2	4.2	7.4	10.5	31.6
亀山	71	14.1	19.7	2.8	29.6	1.4	1.4	5.6	35.2

	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	わからない
全体	8.7	28.8	6.0	15.9	14.4	16.1	6.2	6.7	2.5
鈴鹿西部	4.1	32.4	8.1	13.5	14.9	18.9	2.7	6.8	-
鈴鹿北部	8.9	27.8	5.1	11.4	6.3	15.2	10.1	10.1	2.5
鈴鹿中部	13.1	28.6	2.4	11.9	16.7	13.1	7.1	6.0	3.6
鈴鹿南部	9.5	33.7	9.5	18.9	12.6	11.6	5.3	2.1	2.1
亀山	7.0	19.7	4.2	23.9	22.5	23.9	5.6	9.9	4.2

問3 主な介護者の方が介護するうえで、どんなことに困っていますか。(3つまで選択可)

【N=439、855(第7期調査)】

介護をするうえで困っていることについては、「介護者の代わりがない」が38.0%と最も高く、次いで「精神的に滅入ってしまう」(27.6%)、「肉体的に疲れてしまう」(20.3%)と続いています。一方、「特にない」は17.8%となっています。



認知症自立度別クロス

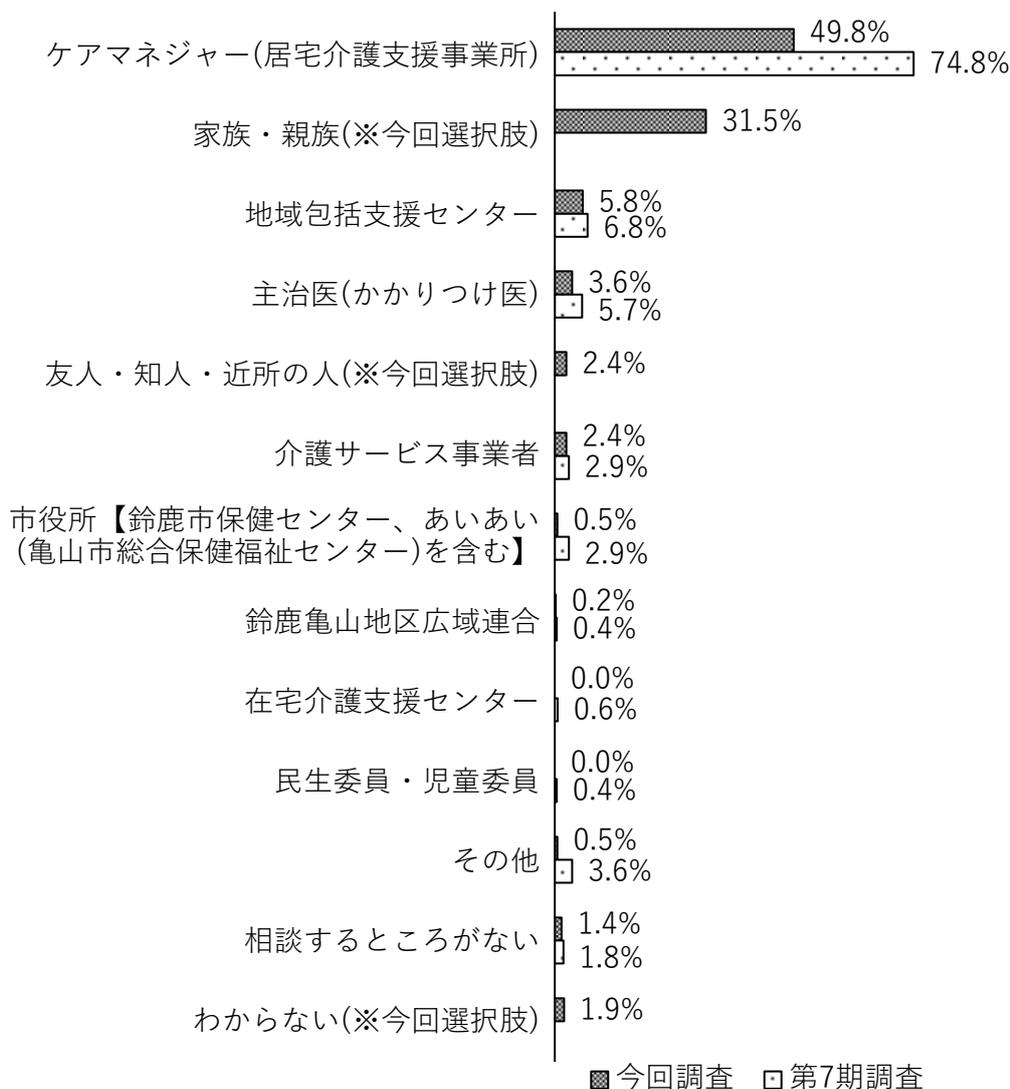
認知症自立度別にみると、いずれも「介護者の代わりがない」が最も高く、次いで『軽度あるいは該当しない方』では「特にない」が、『認知症の方』では「精神的に減入ってしまう」が続いています。

	合計	特にない	介護の方法がわからない	本人が介護サービスを受けがらない	家族や親戚の人などの理解が足りない	相談する人や悩みを聞いてくれる人がいない	介護者の代わりがない	精神的に減入ってしまう
全体	431	17.9	5.8	10.2	4.2	3.7	37.8	27.6
軽度あるいは該当しない方	172	24.4	5.8	6.4	4.1	3.5	36.0	17.4
認知症の方	259	13.5	5.8	12.7	4.2	3.9	39.0	34.4

	肉体的に疲れてしまう	経済的な負担が大きい	仕事との両立が難しい	自分の時間がもてない	健康状態に不安がある	本人にあたり、放つておいてしまうことがある	その他	わからない
全体	19.7	9.5	10.9	19.0	20.0	6.0	4.4	2.8
軽度あるいは該当しない方	17.4	7.6	10.5	18.0	21.5	2.3	5.8	2.9
認知症の方	21.2	10.8	11.2	19.7	18.9	8.5	3.5	2.7

問4 主な介護者の方が介護について相談したいとき、まずどこに相談しますか。(1つを選択)
【N=416、822(第7期調査)】

介護についての相談先については、「ケアマネジャー(居宅介護支援事業所)」が49.8%と最も高く、次いで「家族・親族」が31.5%と続いています。以下、「地域包括支援センター」(5.8%)、「主治医(かかりつけ医)」(3.6%)と続きますが、いずれも6%以下と低くなっています。一方、「相談するところがない」は僅か1.4%となっています。



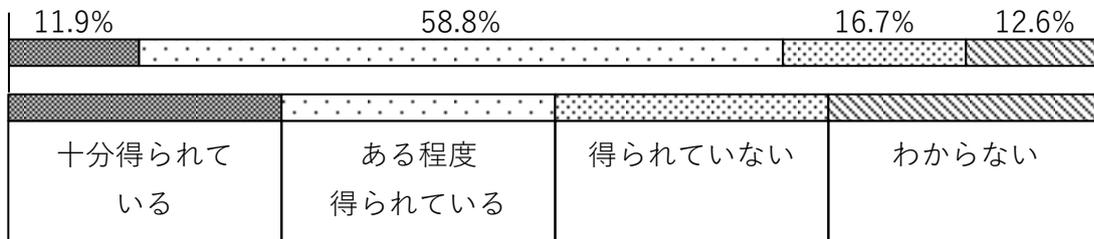
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」が最も高く、特に『鈴鹿中部』では57.1%と高くなっています。

	合計	家族・親族	友人・知人・近所の人	ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	介護サービス事業者	地域包括支援センター	在宅介護支援センター
全体	415	31.6	2.4	49.6	2.4	5.8	-
鈴鹿西部	84	32.1	2.4	48.8	3.6	8.3	-
鈴鹿北部	76	38.2	5.3	40.8	2.6	2.6	-
鈴鹿中部	84	23.8	2.4	57.1	2.4	8.3	-
鈴鹿南部	95	30.5	2.1	50.5	1.1	7.4	-
亀山	76	34.2	-	50.0	2.6	1.3	-
	保健福祉センター（亀山市総合 市役所（鈴鹿市保健セン ター、あいあい（亀山市総合 保健福祉センター）を含む）	鈴鹿亀山地区広域連合	主治医（かかりつけ医）	民生委員・児童委員	その他	相談するところがない	わからない
全体	0.5	0.2	3.6	-	0.5	1.4	1.9
鈴鹿西部	-	-	3.6	-	-	1.2	-
鈴鹿北部	-	-	5.3	-	1.3	1.3	2.6
鈴鹿中部	-	1.2	-	-	1.2	2.4	1.2
鈴鹿南部	-	-	6.3	-	-	-	2.1
亀山	2.6	-	2.6	-	-	2.6	3.9

問5 主な介護者の方は、介護に関する情報を得られていますか。(1つを選択) 【N=461】

介護に関する情報の入手状況については、「ある程度得られている」が過半数(58.8%)を占めており、「十分得られている」(11.9%)を合わせた『得られている』は70.7%を占めています。一方、「得られていない」は16.7%となっています。



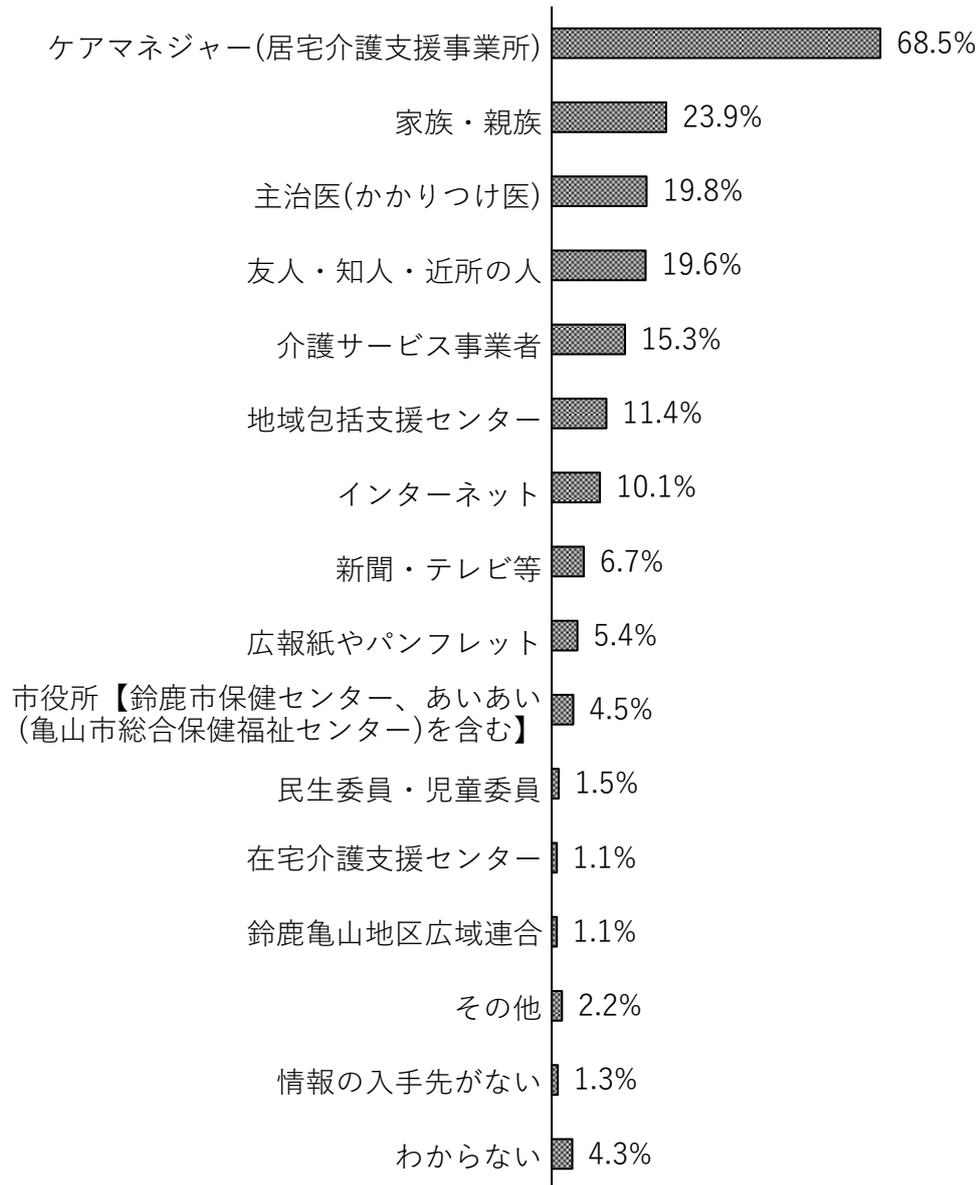
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『得られている』は『鈴鹿西部』『鈴鹿北部』『鈴鹿南部』では70%を超えています。一方、『鈴鹿中部』では「得られていない」(24.7%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています

	合計	十分得られている	ある程度得られている	得られていない	わからない
全体	460	12.0	58.7	16.7	12.6
鈴鹿西部	91	14.3	63.7	13.2	8.8
鈴鹿北部	86	8.1	67.4	14.0	10.5
鈴鹿中部	97	15.5	49.5	24.7	10.3
鈴鹿南部	106	11.3	63.2	13.2	12.3
亀山	80	10.0	48.8	18.8	22.5

問6 主な介護者の方は、介護に関する情報をどのような方法で入手していますか。(複数選択可)
【N=464】

介護に関する情報の入手方法については、「ケアマネジャー(居宅介護支援事業所)」が68.5%と最も高く、次いで「家族・親族」(23.9%)、「主治医(かかりつけ医)」(19.8%)と続いています。一方、「情報の入手先がない」は僅か1.3%となっています。

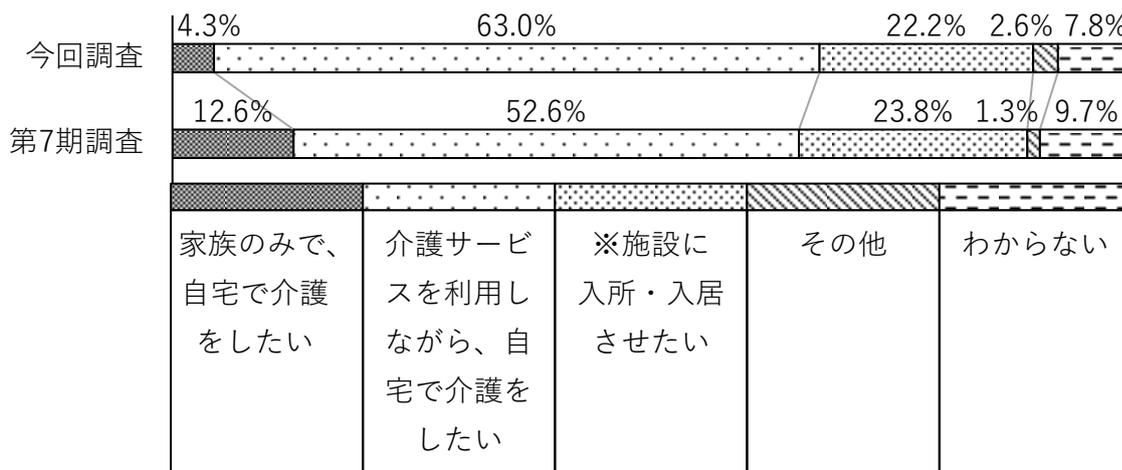


問7 今後、ご本人(認定調査対象者)の介護についてどのようにお考えですか。(1つを選択)

【N=460、897(第7期調査)】

今後の介護の考え方については、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が63.0%を占め、「家族のみで、自宅で介護をしたい」は4.3%、「施設に入所・入居させたい」は22.2%となっています。

第7期調査と比較すると、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が10.4ポイント上昇する一方、「家族のみで、自宅で介護をしたい」は8.3ポイント低下しています。



※「施設に入所・入居させたい」の第7期調査の数値については、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居させたい」と「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい」の合算

要介護度別クロス

要介護度別にみると、いずれの要介護度でも「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が最も高く、特に『要介護2』では70.0%と高くなっています。一方、『要介護3』『要介護4』では「施設に入所・入居させたい」(39.1%、33.3%)が、『要介護5』では「家族のみで、自宅で介護をしたい」(18.8%)が、それぞれ他の要介護度に比べて高くなっています。

	合計	家族のみで、自宅で介護をしたい	介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	施設に入所・入居させたい	その他	わからない
全体	451	4.4	63.0	22.0	2.7	8.0
要支援1	44	11.4	61.4	13.6	2.3	11.4
要支援2	89	6.7	68.5	12.4	3.4	9.0
要介護1	117	3.4	63.2	19.7	1.7	12.0
要介護2	100	-	70.0	24.0	2.0	4.0
要介護3	46	4.3	43.5	39.1	4.3	8.7
要介護4	39	-	59.0	33.3	5.1	2.6
要介護5	16	18.8	56.3	25.0	-	-

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が最も高く、特に『夫婦のみ世帯』では75.7%と高くなっています。一方、『単身世帯』では「施設に入所・入居させたい」(33.6%)が他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	家族のみで、自宅で介護をしたい	介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	施設に入所・入居させたい	その他	わからない
全体	456	4.4	63.2	21.9	2.6	7.9
単身世帯	116	2.6	43.1	33.6	6.0	14.7
夫婦のみ世帯	111	8.1	75.7	8.1	2.7	5.4
その他	229	3.5	67.2	22.7	0.9	5.7

日常生活圏域別クロス

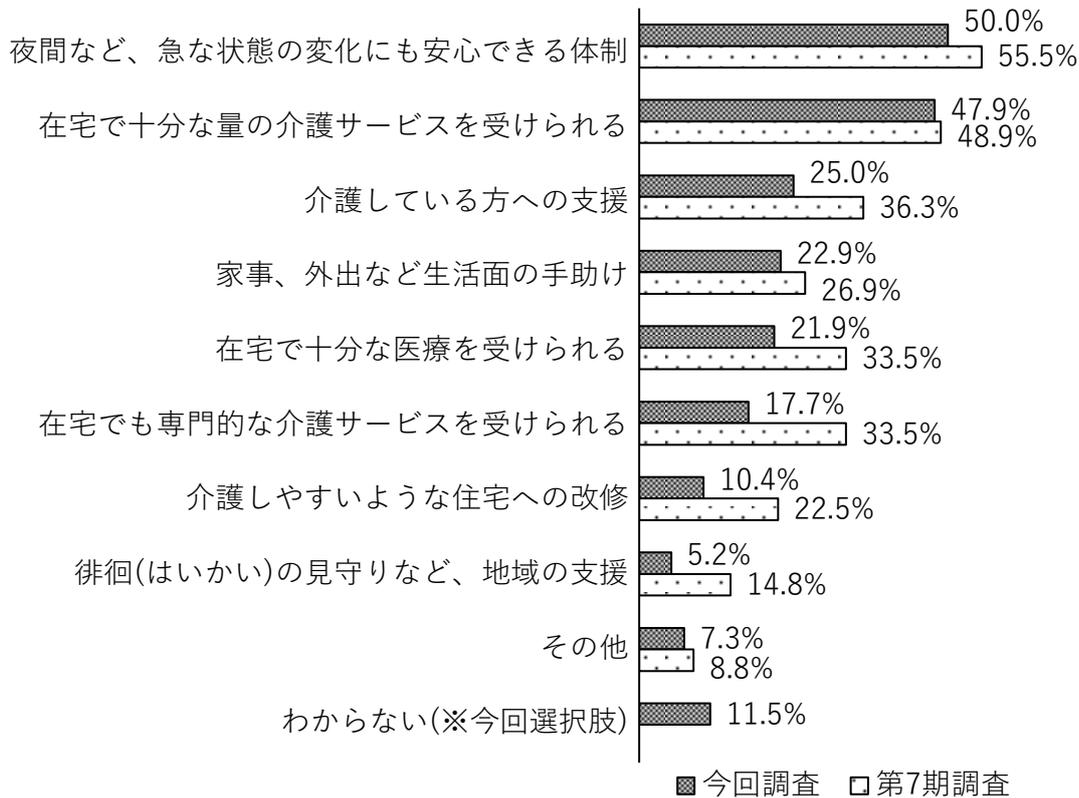
日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が最も高く、特に『鈴鹿北部』では75.6%と高くなっています。一方、『鈴鹿西部』では「施設に入所・入居させたい」(31.1%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	家族のみで、自宅で介護をしたい	介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	施設に入所・入居させたい	その他	わからない
全体	459	4.4	63.0	22.2	2.6	7.8
鈴鹿西部	90	1.1	54.4	31.1	4.4	8.9
鈴鹿北部	86	5.8	75.6	9.3	4.7	4.7
鈴鹿中部	98	4.1	63.3	20.4	2.0	10.2
鈴鹿南部	106	4.7	64.2	25.5	0.9	4.7
亀山	79	6.3	57.0	24.1	1.3	11.4

問7で「3」と回答した方にお伺いします。

問7-② どのような条件を整えば、自宅で生活が続けることができると思いますか。(3つまで選択可) 【N=96、182(第7期調査)】

どのような条件を整えば、自宅で生活が続けることができるかについては、「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」が50.0%と最も高く、次いで「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」(47.9%)、「介護している方への支援」(25.0%)と続いています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要介護5』では「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」と「介護している方への支援」が同率で高くなっていますが、その他の要介護度ではいずれも「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」が最も高くなっています。

	合計	け ら れ る	介 護 サ ー ビ ス を 受 け ら れ る	在 宅 で も 専 門 的 な 介 護 サ ー ビ ス を 受 け ら れ る	を 受 け ら れ る	な 介 護 し や す い よ う な 改 修	域 の 支 援	の 見 守 り な ど、 地 域 の 支 援	の 支 援 し て い る 方 へ	活 面 の 手 助 け な ど 生 活 面 の 手 助 け な ど	そ の 他	わ か ら な い
全体	94	47.9	48.9	18.1	21.3	10.6	5.3	25.5	23.4	7.4	11.7	
要支援1	5	40.0	80.0	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0	-	-	-	
要支援2	10	60.0	90.0	40.0	20.0	20.0	-	10.0	20.0	10.0	-	
要介護1	23	43.5	52.2	8.7	13.0	8.7	4.3	34.8	30.4	8.7	8.7	
要介護2	23	52.2	43.5	17.4	13.0	13.0	8.7	26.1	30.4	-	13.0	
要介護3	17	52.9	29.4	17.6	23.5	11.8	5.9	23.5	17.6	17.6	17.6	
要介護4	12	41.7	50.0	-	41.7	-	-	16.7	25.0	-	16.7	
要介護5	4	25.0	-	50.0	25.0	-	-	50.0	-	25.0	25.0	

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『その他』では「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」と「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」が同率で高くなっていますが、その他の世帯類型ではいずれも「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」が最も高くなっています。

	合計	け ら れ る	介 護 サ ー ビ ス を 受 け ら れ る	在 宅 で も 専 門 的 な 介 護 サ ー ビ ス を 受 け ら れ る	を 受 け ら れ る	な 介 護 し や す い よ う な 改 修	域 の 支 援	の 見 守 り な ど、 地 域 の 支 援	の 支 援 し て い る 方 へ	活 面 の 手 助 け な ど 生 活 面 の 手 助 け な ど	そ の 他	わ か ら な い
全体	95	47.4	49.5	17.9	22.1	10.5	5.3	24.2	23.2	7.4	11.6	
単身世帯	37	56.8	59.5	13.5	21.6	10.8	8.1	24.3	29.7	5.4	10.8	
夫婦のみ世帯	9	33.3	44.4	11.1	-	-	11.1	11.1	33.3	22.2	22.2	
その他	49	42.9	42.9	22.4	26.5	12.2	2.0	26.5	16.3	6.1	10.2	

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿中部』『亀山』では「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が最も高く、特に『鈴鹿中部』では75.0%と高くなっています。その他の日常生活圏域ではいずれも「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」が最も高くなっています。

	合計	けら ら れ る	介 護 サ ー ビ ス を 受 け ら れ る	在 宅 で も 専 門 的 な 受 け ら れ る	夜 間 な ど 、 急 な 状 態 の 変 化 に も 安 心 で き る	在 宅 で も 専 門 的 な 受 け ら れ る	在 宅 で も 専 門 的 な 受 け ら れ る	な 介 護 し や す い よ う な 改 修 の 支 援	域 の 支 援	の 見 守 り な ど 、 地 域 の 支 援	の 支 援 し て い る 方 へ	活 面 の 手 助 け な ど 生 活 上 の 支 援	そ の 他	わ か ら な い
全体	96	47.9	50.0	17.7	21.9	10.4	5.2	25.0	22.9	7.3	11.5			
鈴鹿西部	25	48.0	52.0	24.0	24.0	12.0	-	16.0	12.0	4.0	12.0			
鈴鹿北部	8	50.0	62.5	-	37.5	-	-	12.5	25.0	25.0	-			
鈴鹿中部	20	75.0	55.0	15.0	25.0	15.0	-	25.0	25.0	-	5.0			
鈴鹿南部	26	30.8	50.0	23.1	19.2	7.7	15.4	34.6	30.8	11.5	11.5			
亀山	17	41.2	35.3	11.8	11.8	11.8	5.9	29.4	23.5	5.9	23.5			

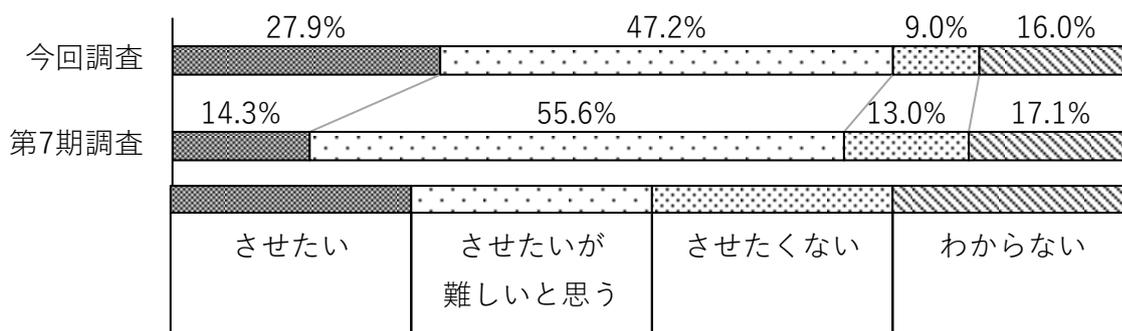
今後の介護について

再びすべての方にお伺いします。

問8 主な介護者の方は、ご本人(認定調査対象者)を自宅で最期まで療養させたいと思いますか。(1つを選択) 【N=445、898(第7期調査)】

自宅で最期まで療養させたいと思うかどうかについては、「させたいが難しいと思う」が47.2%と最も高く、次いで「させたい」が27.9%と続いています。一方、「させたくない」は9.0%となっています。

第7期調査と比較すると、「させたい」が13.6ポイント上昇しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要介護5』では「させたい」が最も高くなっていますが、その他の要介護度ではいずれも「させたいが難しいと思う」が最も高くなっています。一方、『要介護4』では「させたくない」(18.9%)が他の要介護度に比べて高くなっています。

	合計	させたい	させたいが難しい	させたくない	わからない
全体	436	27.8	47.2	8.7	16.3
要支援1	40	35.0	45.0	5.0	15.0
要支援2	88	31.8	38.6	4.5	25.0
要介護1	113	24.8	46.0	11.5	17.7
要介護2	97	26.8	55.7	7.2	10.3
要介護3	47	21.3	46.8	10.6	21.3
要介護4	37	16.2	59.5	18.9	5.4
要介護5	14	64.3	28.6	-	7.1

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「させたいが難しいと思う」が最も高くなっています。一方、『夫婦のみ世帯』では「させたい」(42.3%)が、『単身世帯』では「させたくない」(18.6%)が、それぞれ他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	させたい	させたいが難しい	させたくない	わからない
全体	441	28.1	46.7	9.1	16.1
単身世帯	113	17.7	40.7	18.6	23.0
夫婦のみ世帯	104	42.3	43.3	3.8	10.6
その他	224	26.8	51.3	6.7	15.2

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「させたいが難しいと思う」が最も高くなっています。一方、『鈴鹿北部』では「させたい」(38.8%)が、『亀山』では「させたくない」(13.0%)が、それぞれ他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

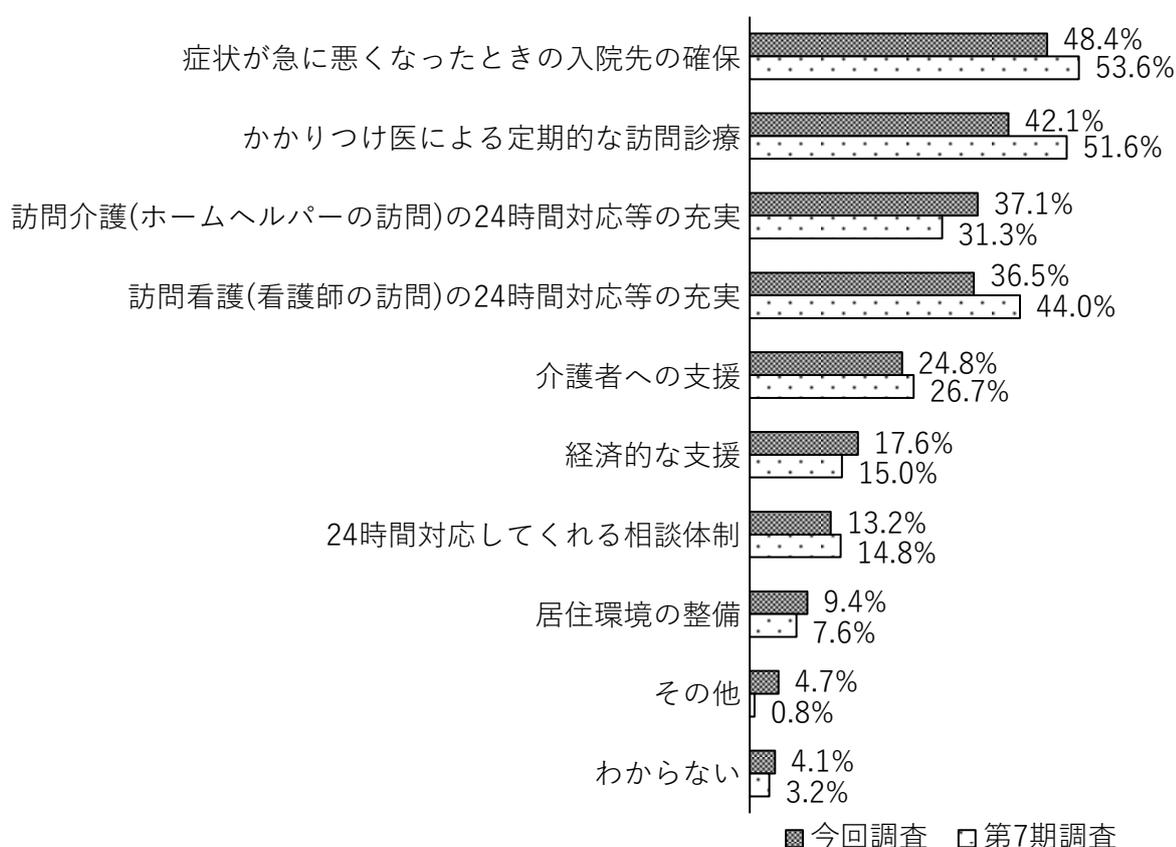
	合計	させたい	させたいが難しい	させたくない	わからない
全体	444	27.7	47.3	9.0	16.0
鈴鹿西部	91	18.7	52.7	8.8	19.8
鈴鹿北部	80	38.8	43.8	7.5	10.0
鈴鹿中部	95	26.3	45.3	8.4	20.0
鈴鹿南部	101	31.7	50.5	7.9	9.9
亀山	77	23.4	42.9	13.0	20.8

問8で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。

問8-② 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択可) 【N=318、595(第7期調査)】

自宅で最期まで療養するために必要なことについては、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が48.4%と最も高く、次いで「かかりつけ医による定期的な訪問診療」(42.1%)、「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の24時間対応等の充実」(37.1%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の24時間対応等の充実」が5.8ポイント上昇する一方、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」は9.5ポイント、「訪問看護(看護師の訪問)の24時間対応等の充実」は7.5ポイント、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」は5.2ポイント、それぞれ低下しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、『要支援1』では「訪問看護(看護師の訪問)の24時間対応等の充実」が、『要支援2』では「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が、『要介護1』『要介護2』『要介護4』では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が、『要介護3』では「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の24時間対応等の充実」が、それぞれ最も高くなっています。『要介護5』では「かかりつけ医による定期的な訪問診療」「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の24時間対応等の充実」「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が同率で高くなっています。また、『要支援1』では「介護者への支援」(32.3%)が、『要介護3』では「経済的な支援」(26.7%)が、『要介護4』では「24時間対応してくれる相談体制」(25.9%)が、それぞれ他の要介護度に比べて高くなっています

	合計	期 か 的 な 訪 問 診 療 に よ る 定	の 充 実 の 充 実 の 充 実 の 充 実	訪 問 診 療 の 充 実 の 充 実 の 充 実	パ ー の 充 実 の 充 実 の 充 実	訪 問 診 療 の 充 実 の 充 実 の 充 実	る 2 4 時 間 対 応 し て く れ	介 護 者 へ の 支 援	と 症 状 が 急 に 悪 く な っ た	居 住 環 境 の 整 備	経 済 的 な 支 援	そ の 他	わ か ら な い
全体	312	42.3	37.2	36.5	13.1	24.7	48.4	9.6	17.3	4.8	4.2		
要支援1	31	41.9	45.2	35.5	3.2	32.3	41.9	9.7	12.9	-	12.9		
要支援2	61	49.2	41.0	39.3	9.8	23.0	44.3	14.8	21.3	1.6	1.6		
要介護1	79	48.1	27.8	29.1	15.2	24.1	55.7	8.9	13.9	3.8	3.8		
要介護2	72	38.9	45.8	33.3	15.3	23.6	47.2	9.7	15.3	9.7	5.6		
要介護3	30	43.3	33.3	46.7	10.0	26.7	43.3	-	26.7	6.7	-		
要介護4	27	14.8	25.9	44.4	25.9	25.9	51.9	7.4	18.5	3.7	-		
要介護5	12	50.0	41.7	50.0	8.3	16.7	50.0	16.7	16.7	8.3	8.3		

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『単身世帯』『その他』では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が、『夫婦のみ世帯』では「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が、それぞれ最も高くなっています。また、『単身世帯』では「居住環境の整備」(14.1%)が、『その他』では「介護者への支援」(28.1%)と「経済的な支援」(21.6%)が、それぞれ他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	定期的な訪問診療による定	かかりつけ医による定	訪問看護(ホームヘルパー)の充実	訪問看護(ホームヘルパー)の充実	訪問看護(ホームヘルパー)の充実	訪問看護(ホームヘルパー)の充実	24時間対応してくれ	介護者への支援	症状が急に悪くなったときの入院先の確保	居住環境の整備	経済的な支援	その他	わからない
全体	315	42.2	36.2	37.1	13.0	25.1	48.3	9.2	17.8	4.8	4.1			
単身世帯	64	42.2	43.8	40.6	9.4	23.4	48.4	14.1	14.1	3.1	4.7			
夫婦のみ世帯	80	46.3	42.5	32.5	15.0	20.0	45.0	7.5	12.5	7.5	2.5			
その他	171	40.4	30.4	38.0	13.5	28.1	49.7	8.2	21.6	4.1	4.7			

日常生活圏域別クロス

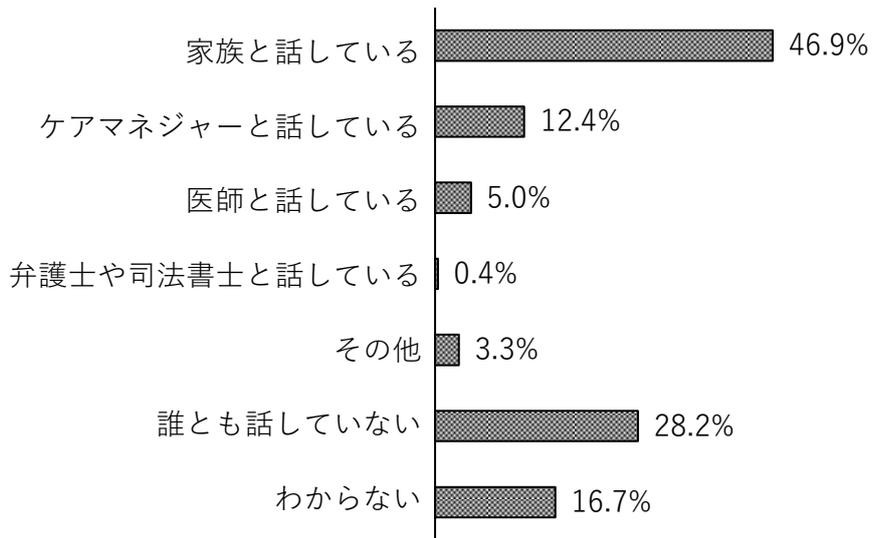
日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が最も高くなっています。また、『鈴鹿南部』では「訪問看護(ホームヘルパーの訪問)の24時間対応等の充実」(44.3%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	定期的な訪問診療による定	かかりつけ医による定	訪問看護(ホームヘルパー)の充実	訪問看護(ホームヘルパー)の充実	訪問看護(ホームヘルパー)の充実	訪問看護(ホームヘルパー)の充実	24時間対応してくれ	介護者への支援	症状が急に悪くなったときの入院先の確保	居住環境の整備	経済的な支援	その他	わからない
全体	317	42.3	36.6	36.9	13.2	24.6	48.6	9.5	17.7	4.7	4.1			
鈴鹿西部	61	41.0	39.3	29.5	13.1	23.0	54.1	8.2	19.7	6.6	6.6			
鈴鹿北部	63	42.9	36.5	34.9	12.7	28.6	49.2	15.9	19.0	3.2	3.2			
鈴鹿中部	65	41.5	40.0	33.8	12.3	21.5	44.6	4.6	18.5	4.6	4.6			
鈴鹿南部	79	45.6	29.1	44.3	11.4	24.1	46.8	8.9	13.9	5.1	3.8			
亀山	49	38.8	40.8	40.8	18.4	26.5	49.0	10.2	18.4	4.1	2.0			

再びすべての方にお伺いします。

問9 ご本人(認定調査対象者)が人生の終末期のことについて話している相手はいますか。(複数選択可) 【N=461】

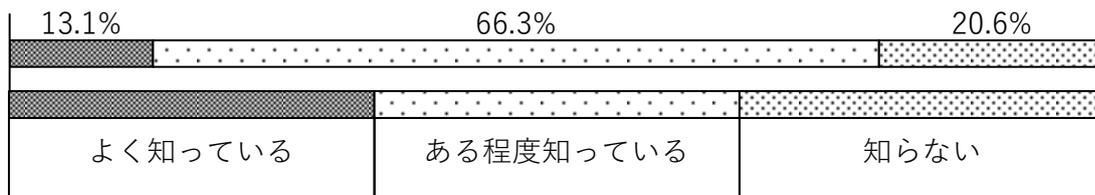
人生の終末期のことについて話している相手については、「家族と話している」が46.9%と最も高く、次いで「ケアマネジャーと話している」(12.4%)、「医師と話している」(5.0%)と続いています。一方、「誰とも話していない」は28.2%となっています。



認知症について

問10 認知症は、単なる物忘れとは異なり、アルツハイマー病や脳血管障害などの病気が主な原因となって引き起こされるため、予防したり、進行を遅らせたりすることができると言われてい
ます。主な介護者の方は認知症についてどの程度知っていますか。(1つを選択) 【N=466】

認知症の認知状況については、「ある程度知っている」が66.3%を占め、「よく知っている」(13.1%)を合わせると『知っている』は79.4%を占めています。一方、「知らない」は20.6%となっており、認知度は高いと言えます。



認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、『認知症の方』は「よく知っている」が14.6%と、『軽度あるいは該当しない方』を上回っています。

	合計	よく知っている	ある程度知っている	知らない
全体	457	13.1	66.3	20.6
軽度あるいは該当しない方	189	11.1	68.3	20.6
認知症の方	268	14.6	64.9	20.5

日常生活圏域別クロス

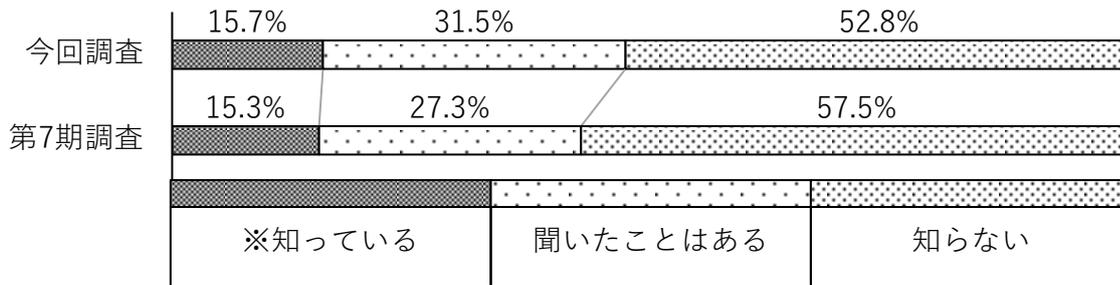
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿北部』『鈴鹿中部』『鈴鹿南部』では『知っている』が80%を超えています。一方、『亀山』では「知らない」(30.5%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	よく知っている	ある程度知っている	知らない
全体	465	12.9	66.5	20.6
鈴鹿西部	94	9.6	70.2	20.2
鈴鹿北部	87	13.8	69.0	17.2
鈴鹿中部	96	14.6	66.7	18.8
鈴鹿南部	106	16.0	66.0	17.9
亀山	82	9.8	59.8	30.5

問11 「認知症サポーター」(認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存じですか。(1つを選択) 【N=464、877(第7期調査)】

「認知症サポーター」の認知状況については、「知らない」が過半数(52.8%)を占めています。「知っている」は15.7%、「聞いたことはある」は31.5%となっており、認知度はあまり高くありません。

第7期調査と比較すると、「聞いたことはある」が4.2ポイント上昇する一方、「知らない」は4.7ポイント低下しています。



※「知っている」の第7期調査の数値については、「よく知っている」と「ある程度知っている」の合算

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、『軽度あるいは該当しない方』は「知らない」が57.0%と、『認知症の方』を7ポイント近く上回っていますが、「知っている」と「聞いたことはある」を合わせると、認知度に差はあまりみられません。

	合計	知っている	は聞いたこと	知らない
全体	455	16.0	31.0	53.0
軽度あるいは該当しない方	186	17.2	25.8	57.0
認知症の方	269	15.2	34.6	50.2

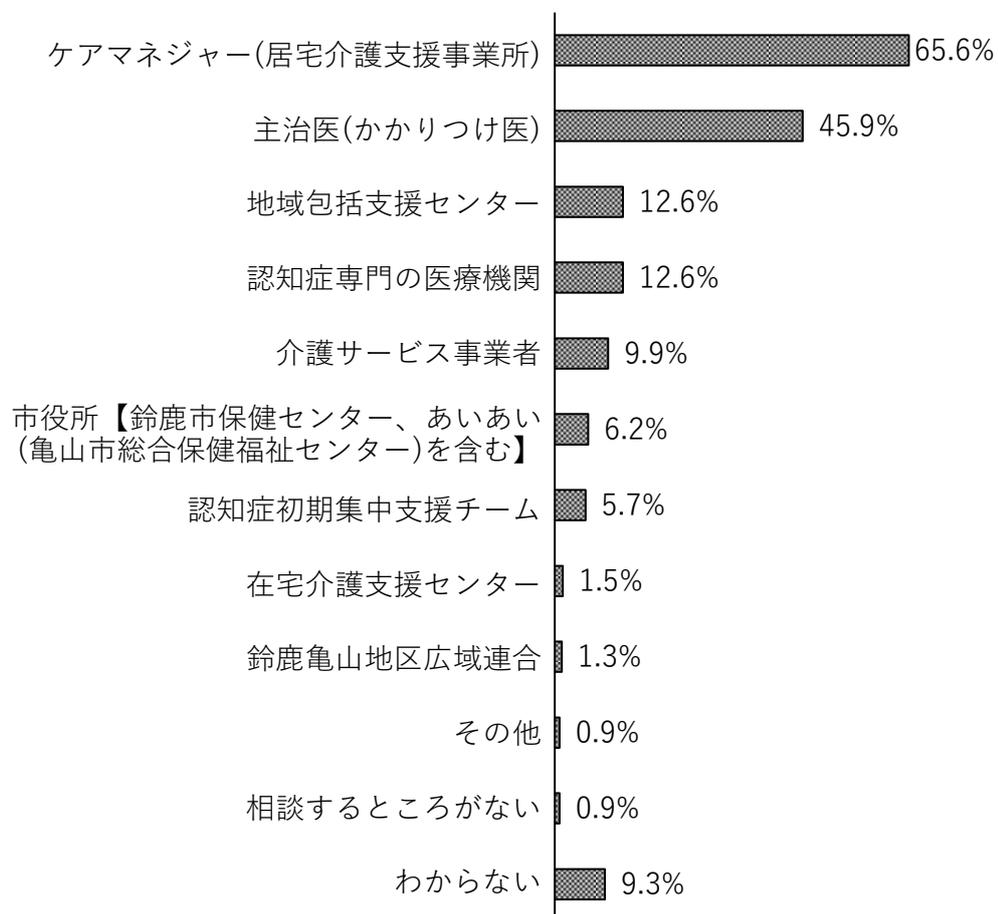
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『亀山』では「知らない」(60.5%)が他の日常生活圏域に比べて特に高くなっています。

	合計	知っている	は聞いたこと	知らない
全体	463	15.8	31.5	52.7
鈴鹿西部	92	17.4	30.4	52.2
鈴鹿北部	86	17.4	34.9	47.7
鈴鹿中部	98	16.3	33.7	50.0
鈴鹿南部	106	14.2	32.1	53.8
亀山	81	13.6	25.9	60.5

問12 認知症について相談する場合、どの相談窓口にご相談しますか。(複数選択可) 【N=453】

認知症について相談する場合の相談先については、「ケアマネジャー(居宅介護支援事業所)」が65.6%と最も高く、次いで「主治医(かかりつけ医)」が45.9%と続いています。一方、「相談するところがない」は僅か0.9%となっています。



認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、いずれの認知症自立度でも「ケアマネジャー(居宅介護支援事業所)」が最も高く、次いで「主治医(かかりつけ医)」が続いています。『軽度あるいは該当しない方』では「地域包括支援センター」(18.9%)が、『認知症の方』では「介護サービス事業者」(13.2%)が、それぞれ3番目に高くなっています。

	合計	認知症初期集中支援チーム	ケアマネジャー(居宅介護支援事業所)	介護サービス事業者	地域包括支援センター	在宅介護支援センター	市役所(鈴鹿市保健センター、あいあい(亀山市総合保健福祉センター)を含む)
全体	445	5.8	65.6	9.9	12.8	1.6	6.3
軽度あるいは該当しない方	180	5.6	65.6	5.0	18.9	2.2	7.8
認知症の方	265	6.0	65.7	13.2	8.7	1.1	5.3

	鈴鹿亀山地区広域連合	主治医(かかりつけ医)	認知症専門の医療機関	その他	相談するところがない	わからない
全体	1.3	46.7	12.8	0.9	0.9	9.0
軽度あるいは該当しない方	2.2	43.3	13.3	1.7	-	10.0
認知症の方	0.8	49.1	12.5	0.4	1.5	8.3

問13 ご本人(認定調査対象者)には認知症の症状がみられますか。(1つを選択) 【N=462】

認知症の症状については、「特にみられない」が47.4%と最も高く、次いで「認知症の診断を受けている」が24.7%、「その疑いがあるように思う」が20.6%と続いています。



性・年齢別クロス

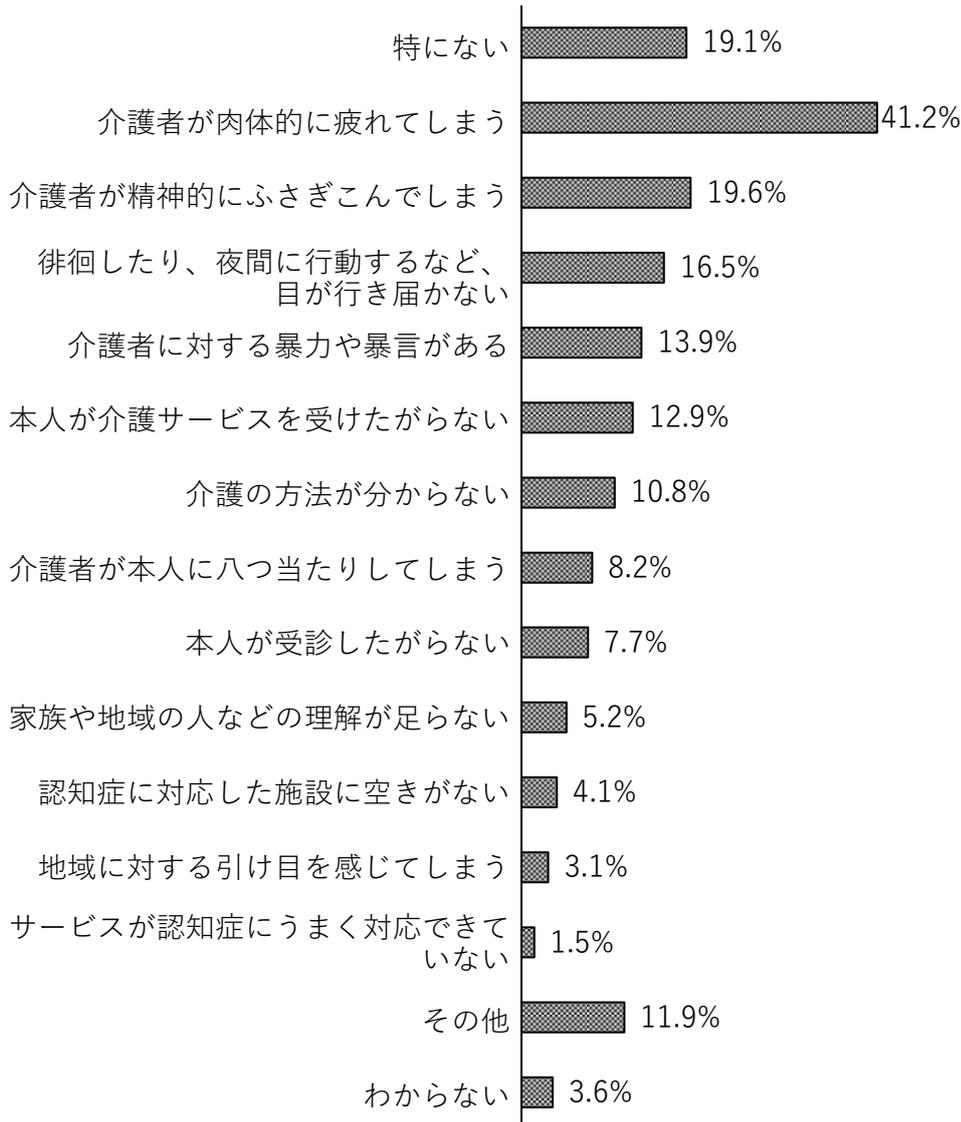
性・年齢別にみると、男女ともに74歳以下では「特にみられない」が60%を超えています。一方、男女ともに75歳以上では「認知症の診断を受けている」が20%を超えています。また、『64歳未満女性』でも20.0%となっています。

		合計	な 特 い に み ら れ	思 う あ る よ う に が	い る の 疑 い が	断 を 受 け て 診	認 知 症 の 診 断	わ か ら な い
男性	全体	168	51.2	20.2	23.8	4.8		
	64歳未満	8	75.0	12.5	-	12.5		
	65～74歳	22	68.2	18.2	13.6	-		
	75～84歳	66	53.0	12.1	31.8	3.0		
	85歳以上	72	41.7	29.2	22.2	6.9		
女性	全体	294	45.2	20.7	25.2	8.8		
	64歳未満	10	60.0	10.0	20.0	10.0		
	65～74歳	23	60.9	8.7	4.3	26.1		
	75～84歳	110	46.4	20.0	26.4	7.3		
	85歳以上	151	41.1	23.8	27.8	7.3		

問13で「2」または「3」と回答した方にお伺いします。

問13-② 認知症に対して、主な介護者の方が困っていることは何ですか。(3つまで選択可)
【N=194】

認知症に対して主な介護者が困っていることについては、「介護者が肉体的に疲れてしまう」が41.2%と最も高く、次いで「介護者が精神的にふさぎこんでしまう」(19.6%)、「徘徊したり、夜間に行動するなど、目が行き届かない」(16.5%)と続いています。一方、「特にない」は19.1%となっています。



認知症自立度別クロス

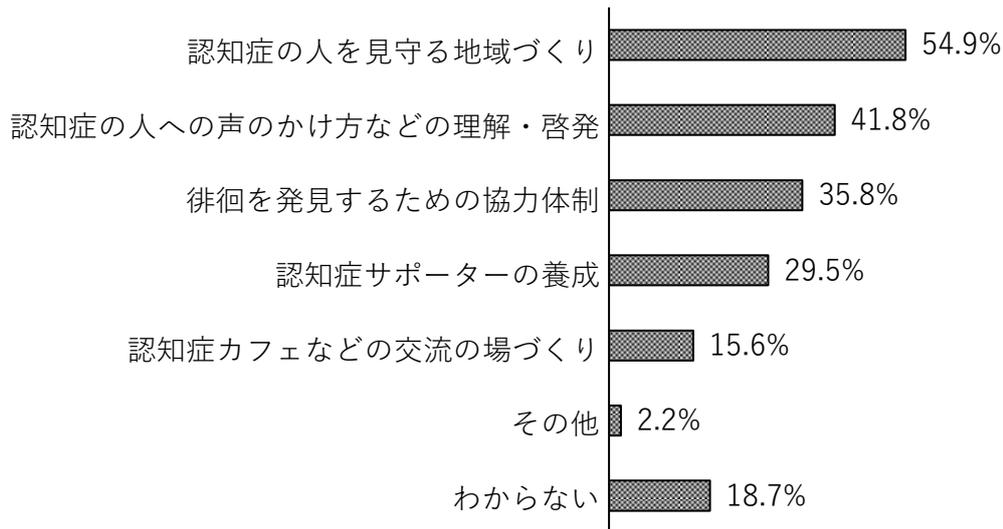
認知症自立度別にみると、『軽度あるいは該当しない方』では「特にない」が47.6%と最も高くなっています。一方、『認知症の方』では「介護者が肉体的に疲れてしまう」が44.7%と最も高くなっています。

	合計	特にない	届かない	徘徊したり、動するなど、目が行き	暴言がある	介護者に対する暴力や	地域に対する引け目を感じてしまう	家族や地域の人の理解が足りない	介護の方法が分からない	本人が受診したがる
全体	191	18.8	16.8	14.1	3.1	5.2	10.5	7.9		
軽度あるいは該当しない方	21	47.6	-	9.5	-	4.8	-	9.5		
認知症の方	170	15.3	18.8	14.7	3.5	5.3	11.8	7.6		
	本人が介護サービスを受けられない	サービスが認知症にうまく対応できていない	認知症に対応した施設に空きがない	介護者が肉体的に疲れてしまう	介護者が精神的にふさぎこんでしまう	介護者が本人に八つ当たりしてしまふ	その他	わからない		
全体	12.6	1.0	3.7	41.9	19.9	8.4	12.0	3.7		
軽度あるいは該当しない方	14.3	-	-	19.0	9.5	4.8	9.5	4.8		
認知症の方	12.4	1.2	4.1	44.7	21.2	8.8	12.4	3.5		

再びすべての方にお伺いします。

問14 認知症の人が地域の中で暮らしていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択可) 【N=455】

認知症の人が地域の中で暮らしていくために必要なことについては、「認知症の人を見守る地域づくり」が54.9%と最も高く、次いで「認知症の人への声のかけ方などの理解・啓発」(41.8%)、「徘徊(はいかい)を発見するための協力体制」(35.8%)と続いています。



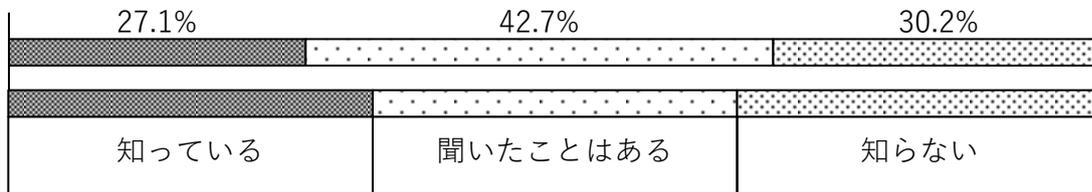
認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、どちらも「認知症の人を見守る地域づくり」が最も高く、次いで「認知症の人への声のかけ方などの理解・啓発」、「徘徊を発見するための協力体制」と続いております。認知症自立度による差はみられません。

	合計	認知症サポーターの養成	認知症の人を見守る地域づくり	認知症の人への声のかけ方などの理解・啓発	認知症のカフェなどの交流の場づくり	徘徊を発見するための協力体制	その他	わからない
全体	448	29.7	55.1	42.4	15.6	36.4	2.2	18.1
軽度あるいは該当しない方	183	32.8	55.7	47.0	13.7	43.7	3.3	16.4
認知症の方	265	27.5	54.7	39.2	17.0	31.3	1.5	19.2

問15 認知症などにより物事の判断能力が十分でない人に代わり、家庭裁判所が選んだ「成年後見人」が財産管理などを行う制度(成年後見制度)があります。主な介護者の方は、「成年後見制度」のことをご存じですか。(1つを選択) 【N=461】

「成年後見制度」の認知状況については、「聞いたことはある」が42.7%であり、「知っている」は27.1%、「知らない」は30.2%となっており、認知度はあまり高くありません。



認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、『認知症の方』では「知っている」が28.1%と『軽度あるいは該当しない方』(25.8%)を上回っています

	合計	知っている	聞いたことはある	知らない
全体	453	27.2	43.3	29.6
軽度あるいは該当しない方	186	25.8	45.7	28.5
認知症の方	267	28.1	41.6	30.3

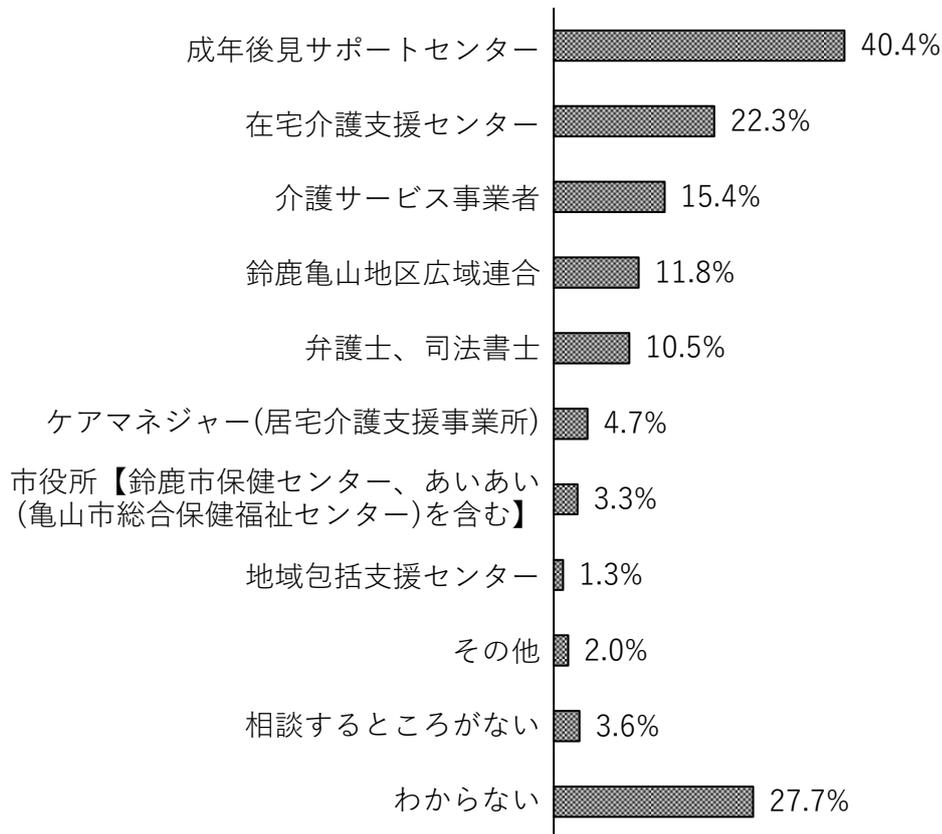
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』『鈴鹿南部』では「知っている」が30%を超えています。一方、『鈴鹿南部』『亀山』では「知らない」が35%を超えています。

	合計	知っている	聞いたことはある	知らない
全体	460	27.2	42.6	30.2
鈴鹿西部	91	34.1	39.6	26.4
鈴鹿北部	85	27.1	45.9	27.1
鈴鹿中部	96	21.9	52.1	26.0
鈴鹿南部	106	32.1	32.1	35.8
亀山	82	19.5	45.1	35.4

問16 成年後見や財産管理などについて相談する場合、どの相談窓口にご相談しますか。(複数選択可)
【N=448】

成年後見や財産管理などの相談先については、「成年後見サポートセンター」が40.4%と最も高く、次いで「在宅介護支援センター」(22.3%)、「介護サービス事業者」(15.4%)と続いています。一方、「相談するところがない」は3.6%となっています。



認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、いずれの認知症自立度でも「成年後見サポートセンター」が最も高く、次いで「在宅介護支援センター」、「介護サービス事業者」と続いており、認知症自立度による差はあまりみられません。

	合計	成年後見サポートセンター	ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	介護サービス事業者	地域包括支援センター	在宅介護支援センター
全体	441	40.4	4.5	15.2	1.4	22.7
軽度あるいは該当しない方	183	39.9	2.7	16.9	1.1	24.6
認知症の方	258	40.7	5.8	14.0	1.6	21.3

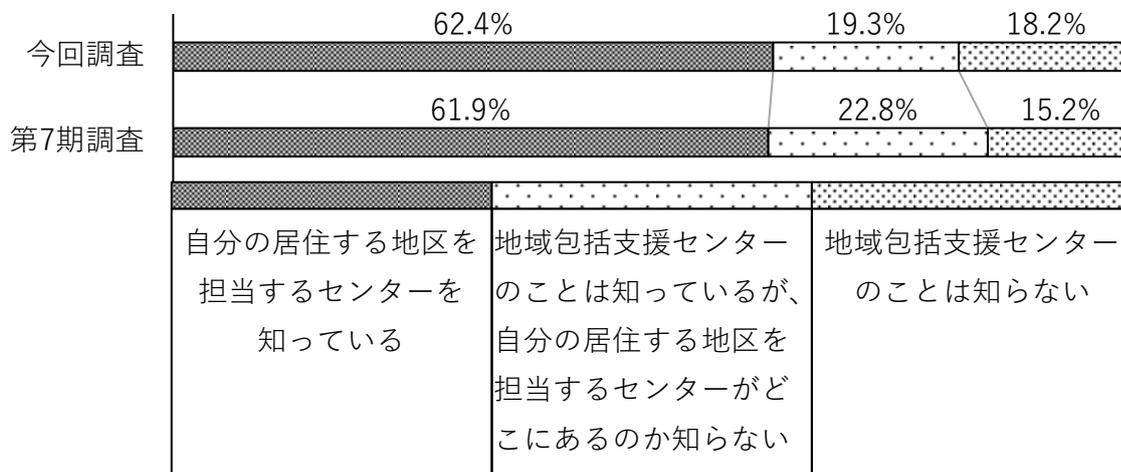
	保健福祉センター（亀山市総合 市役所（鈴鹿市保健セン ター、あいあい（亀山市 保健福祉センター）を含む）	鈴鹿亀山地区広域連合	弁護士、司法書士	その他	相談するところがない	わからない
全体	3.4	12.0	10.7	1.8	3.6	27.7
軽度あるいは該当しない方	2.2	12.0	12.0	2.2	2.7	27.3
認知症の方	4.3	12.0	9.7	1.6	4.3	27.9

地域包括支援センターについて

問17 鈴鹿亀山地区には、鈴鹿市内に4か所、亀山市内に1か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存じですか。(1つを選択) 【N=450、775(第7期調査)】

地域包括支援センターの認知状況については、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が62.4%を占め、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」は19.3%、「地域包括支援センターのことは知らない」は18.2%となっています。

第7期調査と比較すると、「地域包括支援センターのことは知らない」が3.0ポイント上昇する一方、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」は3.5ポイント低下しています。



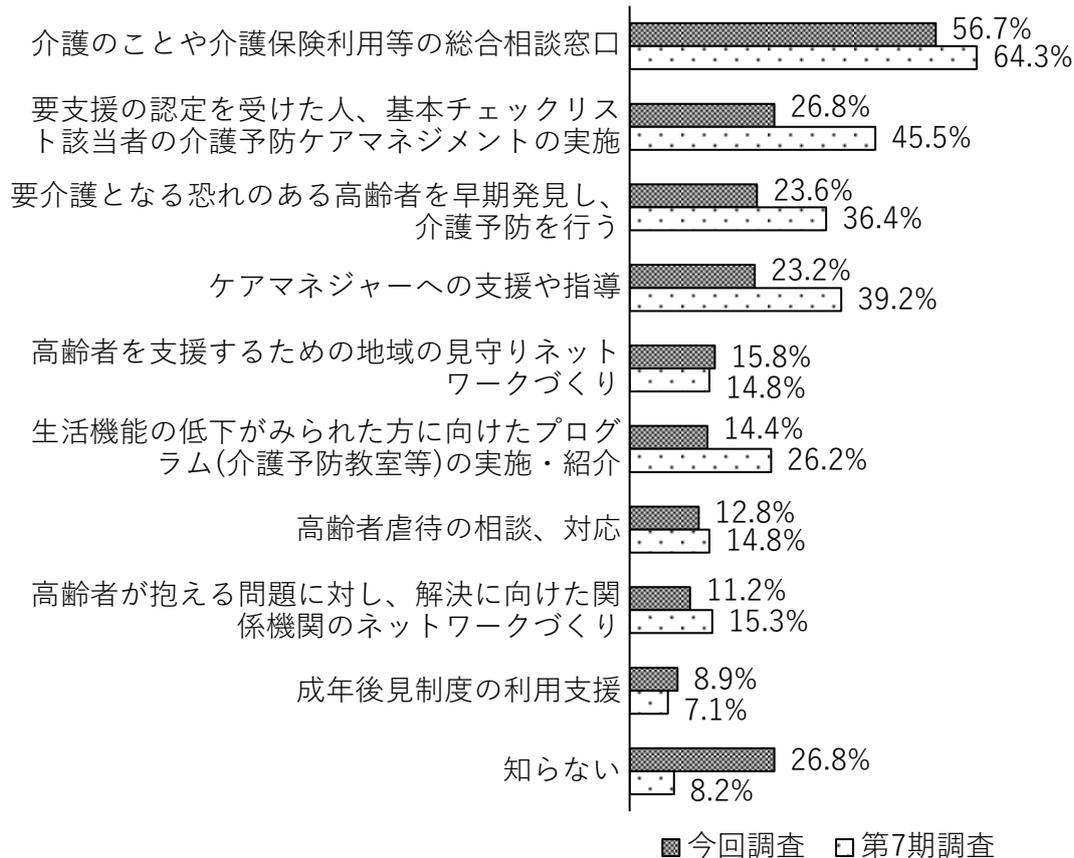
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』『鈴鹿南部』『亀山』では「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が60%を超えています。また、『鈴鹿北部』では「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」(27.1%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない	地域包括支援センターのことは知らない
全体	449	62.6	19.4	18.0
鈴鹿西部	91	65.9	13.2	20.9
鈴鹿北部	85	57.6	27.1	15.3
鈴鹿中部	96	59.4	22.9	17.7
鈴鹿南部	101	64.4	18.8	16.8
亀山	76	65.8	14.5	19.7

問18 「地域包括支援センター」の役割として知っているものはどれですか。(複数選択可) 【N=436、607(第7期調査)】

「地域包括支援センター」の役割として知っているものについては、「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」が56.7%と最も高く、次いで「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」(26.8%)、「要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う」(23.6%)と続いています。一方、「知らない」は26.8%となっています。

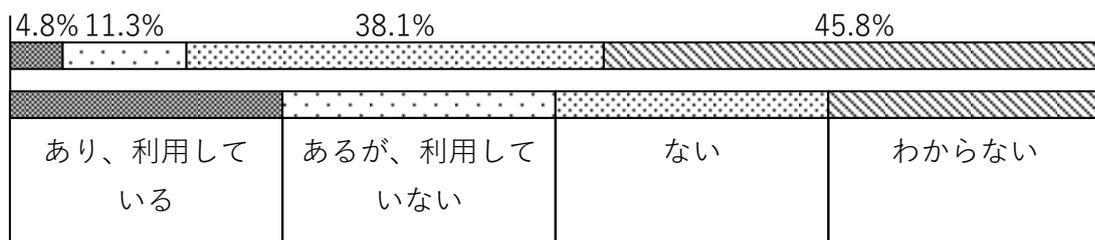


※第7期調査の設問条件は前問で「1」または「2」と回答した方

地域での支援について

問19 ご本人(認定調査対象者)の住んでいる地域には、住民どうしの支え合い活動(サロン活動、ごみ出し・草取りなどの手助け、買い物の付き添いなど)がありますか。また、その活動による手助けを利用していますか。(1つを選択) 【N=441】

居住地域の住民どうしの支え合い活動の有無とその手助けの利用状況については、「わからない」が45.8%と最も高く、次いで「ない」が38.1%と続いています。「あり、利用している」は4.8%、「あるが、利用していない」は11.3%となっています。



日常生活圏域別クロス

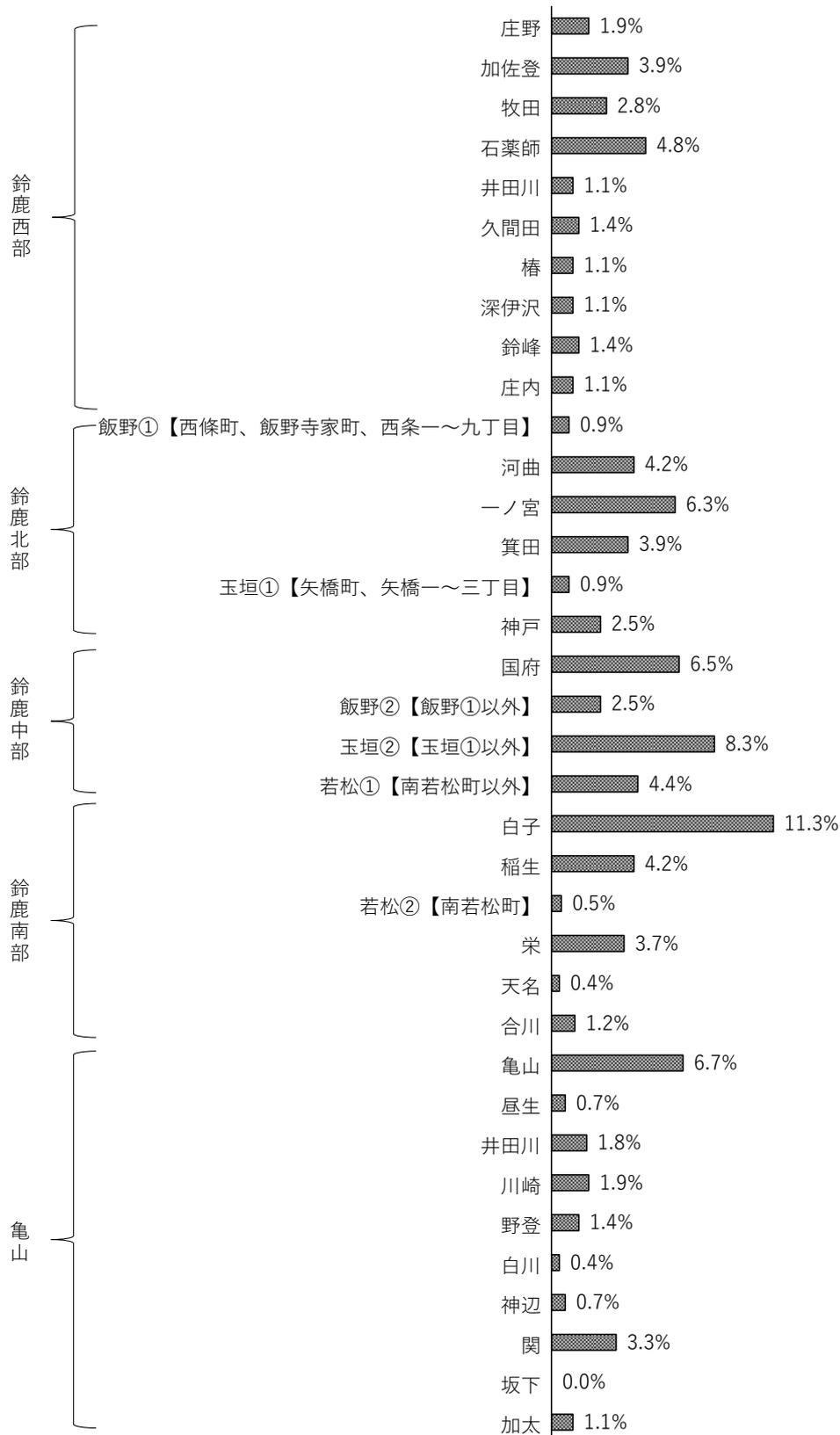
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』では「あり、利用している」(7.8%)が、『鈴鹿南部』では「あるが、利用していない」(18.6%)が、それぞれ他の日常生活圏域に比べて高くなっています。一方、『鈴鹿中部』では「ない」(46.7%)が他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	てあり、 いる、 利用し	しあ てる いが ない 利用	ない	わ か ら ない
全体	440	4.8	11.4	38.2	45.7
鈴鹿西部	90	7.8	10.0	40.0	42.2
鈴鹿北部	84	3.6	7.1	38.1	51.2
鈴鹿中部	92	3.3	8.7	46.7	41.3
鈴鹿南部	102	4.9	18.6	31.4	45.1
亀山	72	4.2	11.1	34.7	50.0

属性

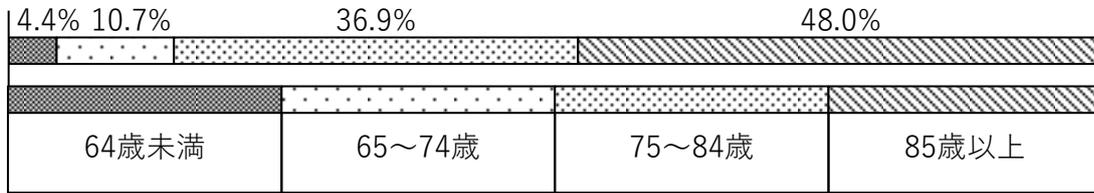
居住地区【N=568】

居住地区については、「白子」が11.3%と最も高く、次いで「玉垣②(玉垣①以外)」(8.3%)、「亀山」(6.7%)と続いています。



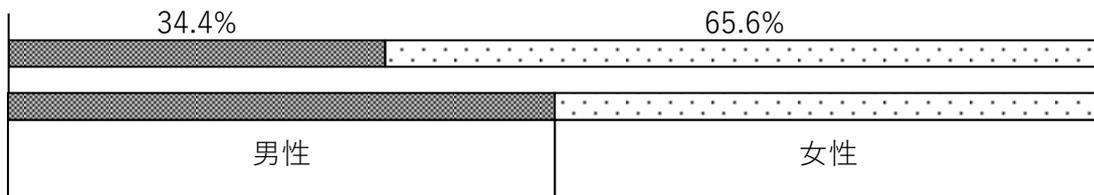
年齢【N=569】

年齢については、「85歳以上」が48.0%と最も高く、次いで「75～84歳」(36.9%)、「65～74歳」(10.7%)と続いています。75歳以上が84.9%を占めています。



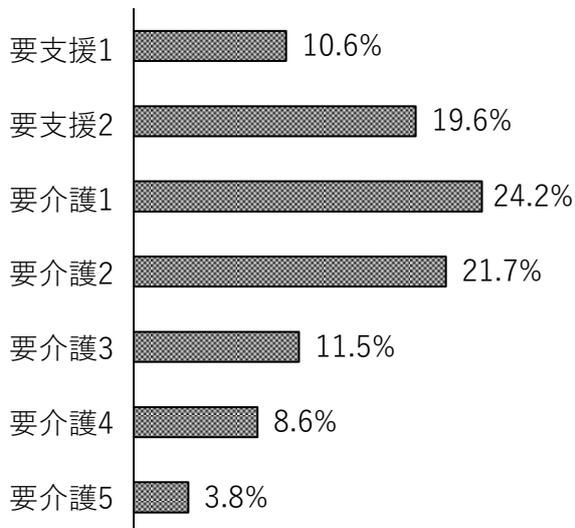
性別【N=569】

性別については、「女性」が65.6%、「男性」が34.4%と、「女性」が「男性」の約2倍となっています。



要介護度【N=557】

要介護度については、「要介護1」が24.2%と最も高く、次いで「要介護2」(21.7%)、「要支援2」(19.6%)と続いています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『64歳未満男性』では「要支援2」が、『75歳以上』の男性では「要介護2」が、『65歳以上』の女性では「要介護1」が、それぞれ最も高くなっています。また、『65～74歳男性』では「要支援2」と「要介護2」が、『64歳未満女性』では「要介護3」と「要介護4」が、それぞれ最も高くなっています。

		合計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男性	全体	189	8.5	19.0	21.2	27.0	11.6	7.9	4.8
	64歳未満	11	9.1	45.5	-	36.4	-	-	9.1
	65～74歳	31	19.4	22.6	16.1	22.6	9.7	6.5	3.2
	75～84歳	69	4.3	18.8	23.2	27.5	14.5	5.8	5.8
	85歳以上	78	7.7	14.1	24.4	26.9	11.5	11.5	3.8
女性	全体	368	11.7	19.8	25.8	19.0	11.4	9.0	3.3
	64歳未満	14	-	21.4	14.3	7.1	21.4	21.4	14.3
	65～74歳	29	17.2	20.7	31.0	10.3	13.8	6.9	-
	75～84歳	136	14.7	22.1	27.9	17.6	8.8	6.6	2.2
	85歳以上	189	9.5	18.0	24.3	22.2	12.2	10.1	3.7

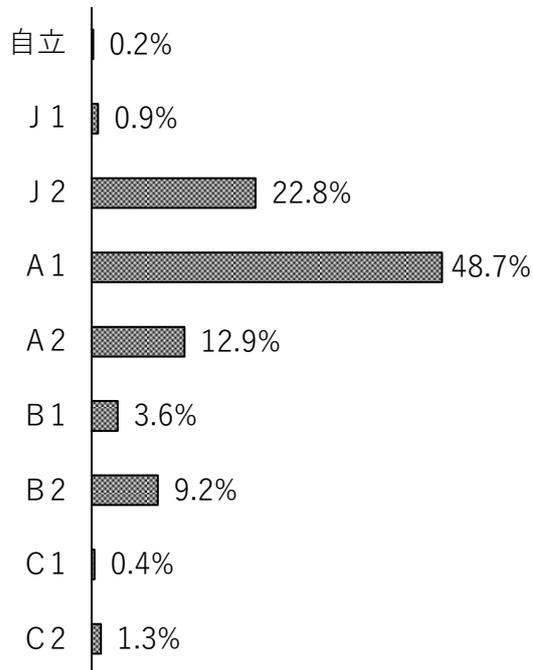
世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『単身世帯』『その他』では「要介護1」が、『夫婦のみ世帯』では「要介護2」が、それぞれ最も高くなっています。『その他』では他の世帯類型に比べて要介護度が高い傾向にあります。

	合計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	551	10.7	19.8	24.3	21.4	11.6	8.5	3.6
単身世帯	145	14.5	22.8	26.9	14.5	13.8	6.2	1.4
夫婦のみ世帯	120	13.3	22.5	21.7	25.8	6.7	6.7	3.3
その他	286	7.7	17.1	24.1	23.1	12.6	10.5	4.9

障害自立度【N=556】

障害自立度については、「A1」が48.7%と最も高く、次いで「J2」(22.8%)、「A2」(12.9%)と続いています。



認知症自立度【N=556】

認知症自立度については、「II b」が29.0%と最も高く、次いで「I」(27.9%)、「III a」(15.3%)と続いています。

